

Title	神宮文庫蔵『(老子経抄)』：翻印篇
Sub Title	Roshikyo-sho in the Jingu bunko library : printed edition
Author	山城, 喜憲(Yamashiro, Yoshiharu)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	1997
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.32 (1997.) ,p.263- 373
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料紹介
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-00000032-0263

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

神宮文庫蔵『老子経抄』 翻印篇

山城喜憲

凡例

一、未刊日本人撰述老子注釈書の第二として、清家文庫『老子経抄』、天理図書館蔵『老子道德経河上公解〔抄〕』に次いで、本書を翻印する。

一、底本は、神宮文庫所蔵（林崎文庫旧蔵）の左記の写本である。

〔老子経抄〕 不分巻 闕名者撰 〔江戸前期〕写 寄合書

和六一冊

神宮文庫目録書名は「老子虞齋口義發題」

函架番号 二門 一二七七号

一、書誌事項の詳細は解題で述べるが、繙読に必要と思われる梗概のみを記しておく。

茶色空押し唐草紋渋引き表紙（二七・五×二〇・四糎）、後補書題簽「老子虞齋口義發題」。天地少しく裁断さる。

序跋目録等前後付け無し。

卷首第一行に、約二字分を下げ、本文よりやや大きめの文字で「老子虞齋口義發題」（低八格）虞齋林 希逸」と題してある。所蔵者目録は、外題或いは本内題を以て書名としてあるが、本文内容を案じて、標記の如く改めた。

無辺無界、字面高さ、約二四・九糎、每半葉十四行、或いは十五行、或いは十一行、行字数不等、行三十字内外（二十

三字乃至四十三字)。柱題署無し。

首の発題の後半、首七章(第七章末二行を除く)及び第五十八章の後半以下を欠く。

本写本は、少なくとも五者の手になる寄合書で、次の六つの部分に於いて筆跡の変化が認められる。①第一丁〜第四丁、②第五丁〜第十一丁、③第十二丁〜第十八丁、④第十九丁〜第二十五丁、⑤第二十六丁〜第三十三丁、⑥第三十四丁以下最終丁第五十四丁

「林崎／文庫」(朱長方)、「林崎文庫」(朱長方、双郭)の印記が有る。本書は他に所蔵を聞かない孤本である。

一、底本の忠実なる復元を期し、原字を出来る限り尊重して本文の誤写、譌字・脱字・衍文はもとより、訓点・振仮名の誤りと雖も、底本の通りそのままに翻字し、私意に懸かる訂正は原則として加えていない。

① 誤写・誤字と思われる部分の右旁には(ママ)の符標を付し、正しい字句が推定可能な場合には「補訂二」に示す。

② 脱字・脱文は、その前後の両字の間右旁に(・)を付し、衍字・衍文には右旁に(・)を付し、「補訂二」に於いて補正する。

③ 行草書筆写体、崩し字等で判読が困難な文字、また翻字に当たって疑義が残る文字に就いては、右旁或いは左旁に(*)符を付し、存疑の旨等を「補注」に記す。

④ 底本の擦り消し、重ね書き、字間への補入の加筆、或いは削除等の修正箇所は、其の訂正するところに従い(*)符を付し「補注」に於いて、原状を注記した。

⑤ 原本の漢文の送り仮名は、漢字の右旁行間に付されたものと、本行右寄りに小書された場合との両様がある。原本の通りに翻字することを心掛けたが、原本の書写の情況は右旁か本行か判断に苦しむ場合が多く、しばしば恣意的になることを余儀なくされた。基本的な方針としては、引用漢文の訓点の送り仮名は行間に記したが、此れも原本書写様態とそぐわない場合には、本行に組み入れた場合がある。

一、翻字者が施した符号・文字はに()を付し、原文と区別した。

一、(*)符を付した字句は、「補注」に注記有ることを示す。

一、(ママ)符は、「補訂一」に注記有ることを示す。

一、(・)符は、「補訂二」に注記有ることを示す。

一、(朱)符は、朱筆であることを示す。

一、一行字数は、底本の通りとし、空行の箇所は可能な限りそれに従い、原状を残した。

一、改頁・改葉の箇所は、丁次数及び表裏の別を、その行下方に(1オ)(1ウ)等の符標を以て示した。

一、字画欠損した文字或いは符号で猶、推定判読可能な場合は「」を付した。

一、◇は、虫損等欠損文字を示す。

一、■は、底本塗抹抹消或いは判読不能の箇所を示す。抹消前の字句が判読出来る場合は、「補注」に記す。

一、引用文は、著者引用のままとし、原則として、引用原典との校合は行わない。但、誤字脱字或いは明らかな誤写と認められるときは、他の例と同様に「補訂」に注記した。

一、印刷技術上の制約により、次の如き更改を余儀無くされた。

① 返点、送り仮名、振り仮名の位置は、原文訓読に齟齬しない限りにおいて、些少の変更を加える。

② 底本の漢字異体字(別体・正字・俗字・略字・くずし字等)は、多くの場合、最も近似する通行の字体に改める。

③ 一行字数が不等であるために、各行末が不揃いとなって

いる。

一、漢字異体字等の取扱いに就いて。

① 原則として現今通行の字体に改める。尚、現今通行字体としては便宜上、JIS第一水準漢字、同第二水準漢字を指標とした。——「異体字表二」参照

② 底本の書体は行草体であり、書写当時通用された正字・俗字・略字が混交している。かかる原状の一端を示す意味からも、現今通行の字体の中で最も近似する字形を採用充当し、所謂新旧両字体をも混用して統一を企ててはいない。——「異体字表一」参照

③ 底本における使用例や常用の度合い等を勘案して、異体字の内、特にそのままの字形で翻字し併用した場合はある。——「異体字表一」参照

④ 混用され、筆写された文字の字形自体から判読することの困難な場合は、文意を案じて私に推定翻字した場合はある。

(例) 曰日 己巳巳 勺勾勾 土士 未末 戌戌
⑤ 崩し字は、原字形に改める。

異体漢字表一

次の如き諸字は底本のままに翻字し、或いはより近似するいずれかの字体を選択し併用する。

ア 愛愛 惡惡 倚 矣矣 為爲 淫 韵匀 陰 惠惠 猿 遠 於於 汗汚洩 往往 穩穩

カ 寡 果果 罇 花華 會 解解 皆皆 槩 盖蓋 曷 葛 鹹 含含 竒 皈 既既 氣氣 氣 跂

隳隳 隳隳 隳 義儀 偽偽 久久 朽 拳拳 舉舉 虛虛 魚 隼 胸 胷 堯 下下 經經 歇 𠵼

劔 嚴嚴 語吾 功 廣廣 曠 皐皐 高高 國國 昏昏 魂魂

サ 齋齋 散散 旨 枝技 試誠 眈時 𠂇 亓 事 式 戎 實實 榭 壽 列 劦 臭 卅 從從 処處

昏書 丈丈 仗仗 抄抄 將將 淨淨 軼 飾 飾 眞眞 眞眞 盡盡 隨隨 数数 雖 虽 勢勢 聖聖 專

專 羨 迂 䟽 捻 總 摠 喪 莊莊 尊尊

タ 体 躰 體 對 第 才 臺 達達 搏搏 𦉳 𦉳 冲冲 晝 疇 籌 鑄 鑄 寵 寵 竈 竈 弟 才 等等 德德 独

獨 讀 誦

ナ 寧 熱 能 𠂇

ハ 廢廢 輩 發發 凡凡 汎汎 鼻 賦賦 武武 弊 弊 敝 偏偏 頁 卯 卯 暮 本本

マ 万萬 滿滿 無无

ヤ 也 乙 与與 欵 餘餘 揚揚 羊樣 幼 幼 窈

ラ 来來 彡 樂樂 離離 略畧 灵靈 礼禮 斂 斂 両兩 梁 論論

ワ 雀 窪

異体漢字表二

現今通行の正字体或いは俗体に改める漢字を挙げる。「↑」で本翻字に於いて使用する字体を示す。

了依↑衾 夷↑夷 姨↑姨 為↑為 為 矣↑矣 謂↑謂 謂 違↑違 育↑胡 逸↑逸 寅↑寅 殷↑殷
 隱↑隱 于↑于 盈↑盈 睿↑睿 閔↑閔 燕↑燕 猿↑猿 遠↑遠 洿↑洿 黄↑黄 横↑横
 横 穩↑穩 力夏↑夏 歌↑歌 禍↑禍 花↑花 華↑華 過↑過 臥↑臥 會↑會 喙↑喙 解↑解
 害↑害 礙↑礙 盖↑盖 擢↑擢 螻↑螻 角↑角 滑↑滑 割↑割 豁↑豁 官↑官 宦 漢↑漢 款
 ↑款 甘↑甘 耳 環↑環 還↑環 肝↑肝 覬↑覬 還↑還 鑑↑鑑 危↑危 器↑器 幾↑元 既↑既 既↑既
 機↑杭 毀↑毀 氣↑氣 窺↑窺 紀↑紀 虧↑虧 記↑記 起↑起 龜↑龜 疑↑疑 疑 疑 疑 疑 疑 疑
 美 迄↑迄 逆↑逆 逆 窮↑窮 嘯↑嘯 拋↑拋 拳↑拳 拳 虚↑虚 虚↑虚 御↑御 魚↑魚 魚 魚
 美 凶↑凶 強↑強 恐↑恐 恐 教↑教 效 胸↑胸 胸 胃↑胃 凝↑凝 曉↑曉 棘↑棘 極↑極 禽↑禽
 句↑句 勺 响↑响 懼↑懼 勁↑勁 形↑形 徑↑徑 絜↑絜 絜 經↑經 迎↑迎 迥 潔↑潔 健↑健 堅↑堅
 堅 膚↑膚 膚 縣↑縣 賢↑賢 賢 原↑原 源↑源 古↑古 固↑固 壺↑壺 孤↑孤 故↑故 虎↑虎
 跨↑跨 誇↑誇 語↑語 語 誤↑誤 侯↑侯 候↑候 厚↑厚 喉↑喉 廣↑廣 拘↑拘 曠↑曠 構↑構
 擗 綱↑綱 興↑興 膏↑膏 荒↑荒 荒 衡↑衡 講↑講 講 剛↑剛 剛 號↑號 號 穀↑穀 混↑混 昏↑昏
 昏 ヲ左↑左 座↑座 災↑災 災 策↑策 策 鑿↑鑿 察↑察 察 雜↑雜 雜 参↑参 粲↑粲 殘
 ↑殘 師↑師 師 弛↑弛 氏↑氏 此↑此 疵 背↑背 背 餌↑餌 式↑式 或↑或 或 失↑失 室↑室
 若↑若 若 爰↑爰 就↑就 樹↑樹 修↑修 修 列↑列 列 廿↑廿 廿 繡↑繡 繡 聚↑聚 衆↑衆 衆 衆 驟
 ↑驟 柔↑柔 獸↑獸 獸 出↑出 出 舜↑舜 処↑処 所↑所 所 初↑初 初 序↑序 傷↑傷 傷 商↑商 商 燒↑

燒	將	將	章	章	象	象	象	象	證	證	讓	讓	讓	讓	觸	觸	辱	辱	滲	滲	真	真	秦	秦	
臣	臣	辰	辰	盡	盡	雖	雖	雖	雖	衰	衰	隨	隨	世	世	制	制	制	制	清	清	聲	聲	請	請
寂	蹠	蹠	竊	竊	說	說	說	說	戰	戰	潛	潛	賤	賤	錢	錢	前	前	前	前	善	善	善	善	
奏	曾	曾	瘦	瘦	莊	莊	藻	藻	增	增	增	增	藏	藏	賊	賊	孫	孫	損	損	他	他	兌	兌	
允	帶	帶	對	對	對	對	泰	泰	泰	濁	濁	奪	奪	奪	奪	段	段	段	段	儋	儋	儋	儋		
置	竹	竹	丑	丑	丑	丑	蟲	蟲	澄	澄	澄	聽	聽	聽	直	直	朕	朕	朕	朕	痛	痛	通	通	
弟	才	抵	抵	鼎	鼎	昇	適	適	適	適	適	卓	轉	轉	殿	殿	登	登	登	登	土	土	蕩	蕩	
曰	德	德	貪	貪	貪	貪	難	難	難	難	難	肉	肉	肉	日	小	繞	繞	繞	寧	寧	寧	寧		
霸	霸	廢	廢	廢	廢	廢	樸	樸	樸	樸	薄	薄	莫	莫	莫	莫	發	發	發	發	撥	撥	撓	撓	
卑	早	費	費	微	微	微	美	美	美	美	美	筆	筆	筆	表	表	表	表	貧	貧	貧	貧	賈	賈	
復	復	復	覆	覆	覆	覆	服	服	服	服	服	分	分	分	分	分	分	分	弊	弊	弊	弊	蔑	蔑	
宝	宝	暴	暴	望	望	穆	穆	穆	沒	沒	沒	邁	邁	邁	邁	邁	邁	邁	滿	滿	滿	滿	懣	懣	
任	任	務	務	命	命	滅	滅	滅	罔	罔	罔	莽	莽	莽	蒙	蒙	蒙	蒙	也	也	也	也	野	野	
史	邑	邑	幽	幽	憂	憂	予	予	與	與	與	豫	豫	豫	餘	餘	預	預	預	預	揚	揚	樣	樣	
楊	楊	陽	陽	養	養	養	陶	陶	陶	陶	欲	欲	欲	欲	抑	抑	抑	抑	來	來	來	來	萊	萊	
离	履	履	兩	兩	兩	梁	梁	梁	梁	梁	梁	獵	獵	廩	廩	憐	憐	婁	婁	累	累	羸	羸		
零	零	麗	麗	靡	靡	魯	魯	魯	魯	魯	漏	漏	漏	漉	漉	漉	漉	漉	漉	漉	漉	漉	漉	漉	
比	比																								

(表紙)

(題簽)

老子 虞齋 口義發題

(見返し、無題)

老子 虞齋 口義發題

虞齋林 希逸

虞一ハ希逸カ其室ノ号也希逸林ハ氏名希逸字肅翁

宋ノ福清人莆田ノ人ト云芟モアルゾ竹溪氏名ヲ云ソ竹溪ハ字ヲ

芟(ママ)斬陳藻字元絜福清人ニ得タソ芟(ママ)斬ハ綱山林(ママ)赤之字可

福清人ニ得タリ綱山(*)ハ老艾林光朝字謙之莆田人ニ得タリ芟(ママ)斬綱(*)

山老艾ト三傳ノ林希逸ニ至レリ尺スニ其師之傳ヲ又蒐獵釈老諸昏於

六經子史之外ニ者也○口芟トハ諳ニ講スル芟也不筆記而口説芟ヲ云フ

以口義名トスル者謂其不為文雜俚俗而直述之也ト注セリ

○發題トハ發起ノ心也題ハ題芟也序ト不レ云而發題ト云同意也孟子
題辭ト云モ序ノ芟也孟子ニ辭トハ者所ニ以題號孟子之昏本末
指芟文辭之表也ト云、

○老子トハ史記列傳一ニ在之老子姓ハ李名耳字伯陽身之長八尺八

寸黄色美眉長耳大目廣額踈齒方口厚唇其外異相異形

史記徃見周ノ定王三年九月十四日ノ夜生敬王元年ニテ八十六歲ニシ

関ノ令尹喜ト西行クト云フ李母八十一年ニシテ生李母逍遙李樹下ニ左腋

割生ルタル、時白髮也故老子ト云也老考子孳考_{ハナリ}教衆理_ヲ達成_ヲ至

孳_ヲニ乃孳_ニ生万物善化_(ママ)滌無_レ遺諡曰_(*)聃々耳漫也漫トハナタラカニソ_(ママ)

チノ無_レ也耳無輪曰_(*)聃也神仙傳ニ外字ヲ聃ト云トアリ外字トハアタ名

也外人ノ付タル名ナル故ニ尔ト云也聃他_(*)耳切説文耳漫也徐曰耳ニ無_レ輪郭

也云楚苦縣曲仁里人也苦縣ハ屬陳国又ハ陳縣_ト云漢高祖淮陽国

立テ陳苦ノニ縣陳ヲ淮陽ニ屬ス諸説不レ一也

○老子姓ト云ヨリ至_{マテ}傳者訛云一段此ハ云老子之名芟出生行跡_ヲ老子伯

陽ト云ハ非正ト云モアリ又伯陽父ト云タソ又老萊子ト云説モアリ

○仕周——藏室トハ書室也藏書室ノ史官トナル也周_(ママ)簡王二年ニ仕テ

(1才)

爲守藏史ト云云

○當周景王時——景王周ノ二十五世灵王ノ子也

○吾夫子トハ林氏自ラ云儒者ナル故ニ親シンテル云夫子ハ孔子也孔子ハ

周ノ灵王ノ廿一年庚戌十一月四日ニ生ル魯ノ昌平郷陬邑ニ此叱老子ノ

年五十五歳ト云々

○年三十問礼——周ノ景王十九年乙亥孔子適テ周問レ礼孝子云、

年代廿六歳也雖レ然今二十歳ト云可有レ扱不レ可レ偏言一耳ノ史記列

傳云孔子適周將レ問ニ礼於老子老子曰子カ所レ言者其人与骨皆

已ニ朽矣独其言在耳且君子得ニ其時一則駕不レ得其時一則

蓬累アシカ、エテサル而行吾聞ク之良賈コハ深藏若シテ虚君子盛德容貞若愚ナルカ

去ステ、カ子之驕氣与多欲能色与淫志是皆無レ益ニ於子之身一吾所以

告子若是而已孔子去謂ニ弟子一曰鳥吾知ニ其飛一隼吾知ニ其能游一

獸吾知ニ其走一走者可ニ以爲レ罔一游者可以爲レ綸一飛者可レ以爲レ矰至ニ

於龍一吾不レ能レ知其乘ニ風雲一而上レ天吾今日見ルニ老子一其猶レ龍邪

○其言婁見——礼記ノ曾子問篇ニ曾子カ問事於孔子ニ每孔子

答レ之皆謂吾聞ニ諸老聃一云不一故略レ之

(1ウ)

○於夫子——孔子生タル時老子五十五歲云前輩一其義可レ知

(2才)

○語曰——侖吾述而不作——老彭^ヲ老子彭祖^ト二人云義也陳士元

云老^ハ是老聃^ハ彭^ハ是彭祖^ハ是王弼氏^カ也又云老彭即莊子所

謂彭祖上及有虞^ニ下及五霸者也李ノ善氏云彭祖名鑑堯^マ

ノ臣封於彭城歷虞夏^ヲ至商年七歲^ハ故以久壽稱潛夫論云

老彭壽千餘歲此皆以^ニ老彭^ヲ爲一人也ト云々

○太史公謂——大史云司馬遷欽史記ノ作者也孔子ノ老子ニ嚴^ク取ルト云ハ

記者太過^クノ與^ニ云^ハタソ過^クタ記ヤウト云ゾ

○及夫子没後——此ヨリ下老聃ト周ノ大史儋ト同異ヲ弁ジタルソ

儋ハ左傳ニ謂太史儋史記自孔子死後百二十九^ニ年而史記周太史

儋見秦獻公曰始秦与^レ周合而離^ル而五百歲^ニ而後合々七十歲而霸

王云者出^ト云正焉^ハ或曰儋^ハ即老子^{ナリ}或曰非也世莫知其然否^ニ云云

史記ニハ未^レ決乎然^ニ今ノ序ニ非也ト云可有拋 阪雲集云臯陶之裔思

世之胄也爲理官以^レ理命^ス氏^ニ至^ニ紂時逃難伊墟^ニ爲李氏^ト其五世孫名ハ

乾字元杲爲周上御史^ト昭聃^ハ且眇^ニ娶^ニ洪氏^ヲ曰嬰敷^ト感^ニ飛星^ヲ

娠十二年^ム誕^レ左而生^レ儋^ヲ周宣王之四十二年二月望日也儋^カ之始生其母

(2ウ)

名之玄祿^ヲ爲^ニ伯陽^ト甫生而皓首故謂老子^ニ耳七十而參漏^{ナリ}故名^レ耳

而字聃々^ト與儋同左傳所謂太史儋是也邑於苦之賴鄉^ニ賴^ハ即萊也

故又曰^フ老萊子^ト桓莊ノ世柱下吏簡灵^ニ世守藏史孔子嘗學禮焉

沒後乎十九年而儋入^レ秦而歷流沙^ヲ八十餘^マ士化胡成佛壽四百

有四十歲^{云云}陳士元云余聞道家^ニ謂老子西方入流沙^ニ化胡成佛

積家争^レ勝乃推^レ佛而上之謂老子以周定王三年九月十四日夜

生敬王元年八十六歲與閔令尹喜西行而佛則周昭王甲寅四

月八日生穆王五十二年辛未二月十五日滅渡自穆王辛未至定王

三年丁巳歷三百四十年以明老子無化胡說後世遂授此言^ニ為

實無^ム乃^モ盡信^ス書之過乎^{云云}

○周室既衰——自是^ニ一段^{ナリ}是老子ノ書着述ノ由来并章段義ヲ

云也周衰^トハ周ハ文武次才盛禮儀行治道盛^{ナリシカ}第七懿王ヨリ少^ク

衰^テ詩人刺^レ之幽王平王^{ヨリ}道弥々衰^{ナリ}史記云居^コ周久之見^シ周衰^ヲ迺遂^ニ

去^テ至^ル閔^{云云}散閔^ト括地志^ニ云散閔在岐列陳倉縣東南五十二里^ニ抱

朴子云老子西遊遇^ニ閔ノ令尹喜^ニ於散閔^ニ爲^レ喜着^ニ道德經一卷^ヲ

謂之老子ト云

○知為異人トハ列仙傳ニ老子西遊ノ関令尹喜望見其有紫氣(*)
浮レ関而老子杲乘青牛ニ而過也(*)

○強着書——史記云関令尹喜曰子將レ隱矣強為レ我着レ書於レ是
老子廼着レ書上下篇一言道德之意ニ五十餘言而去莫レ知其前
レ終ニ云

○其上下篇之中——易繫辭一經大體九例論上下ノ芟無レ之欤本芟
云繫辭本謂文王周公所作之辭ニ繫ニ于卦爻之卜即今ノ

經文此篇ハ乃孔子所レ述繫辭之傳也以其ノ通論一經之太
躰凡例ニ故无經ノ可レ附而自分上下ニ云

○河上公分——河上公章句ノ老子經アリ河上公ハ河上躡履
為レ業 老文章好ム老子ニ河上公作兩難ニ問ニ文帝ニ老子意ニ

文帝不レ解出就ニ河上公々々々在草菴中不レ出文帝就謂レ之曰朕乞
人富貴 貪賤 河上公乃出曰余上不レ累天下不レ累地中不レ累人階(*)
下何七余ヲ富貴貪賤 忽拳レ上高百餘文 文帝杲辭謝之於レ是

為文帝章句作是河上公章句老子經 帝段八十一其芟解ノ
云天四時四以乘レ九四九卅六地五行五以乘レ九五九四十五九宮五方羅九

列法應九之八十一也

○天數奇 奇半也 不偶云 奇奇餘也 不偶也 物餘有奇ト云此也

也 偶ハ重也 ナラブ也 陰ノ數ハ双也 三十七ハ半也 四十四ハ重也 天半地重也

天地ノ數合ノ八十一章分タリ

○嚴遵 嚴氏也 字君平 西漢時人 下筮於成都市 日閱數人

以忠孝 日得百錢 足以自餘 則閉肆下簾而讀老子云、君平

章段ハ七十二ト分タリ 陰八陽九ソ八九七十二也 唐元宗ハ上篇道下篇

徳ト分タリ 取象天地 故先道而後徳也 是亦甚不可用也

從來ノ諸芟林氏不可用云也

○大抵老子是ヨリオ三段合ニ於佛書 老子抑若老子所謂無為 下ハ

老子ヲ揚スル也

○晦翁ハ朱子也

(以下余白)

(以下第七章までを欠く、次葉は第七章末二行に始まり、筆跡を異にする)

(4才)

(4ウ)

佛者ヨリ一段高上ニ一重立上タト云ゾ一層ハタナ也塔ノ一層二層ト云モ段段ノ一重々ノ叟也

第八

○上善若一此章ハ水ヲ以テ心ヲ入ル叟無キ処ニ喩テ云ゾ

○上善トハ善至極也世間至善ノ理ハ水ト同キ也水ハ万物ヲ潤テ万物ヲ生育スル物也水何ゾ我レ能ク万物ヲ潤シ万物生育スルト思ヌ也是但自然ニ尔ノ心ヲ入ル、叟無キゾ

○水善ト云ハカミノ上善ノ善ヲ受テ善ト云ゾ但タ水ハト云心ゾ善ハ上ミ

ニ引レテ善ト云ゾ能キ水ト云伎ヲハツクヘカラズ

○不_ト争_ハ水ハ卑ニ順流ノ不_レ逆不_レ争也

○處衆人トハ水ハ湿ニ付キ下ニ流レ居テ下ルヲイヤシトセズ卑下ノ方ヘツク也

世ノ人ハ高ブリ上ルタカル物也サルホトニ卑ク下レルヲニクンデイヤガルガ水ハ卑ク下レルヲ好テ居ル呈人ノ悪ム處ヲ悪シトハセヌゾ如此水ノ本体ヲ見レバ水ノ性ハ尤道ニ近キト云ゾ以_レ水比_レ道云ゾ

○サテ居善地ト云ヨリ下七句ハ有道ノ人ヲ云ゾ此ヲ誤テ水ノ上善カ七ツ

有_(*)テ見立ツルハ悪キ伎理也ト注ニモ云ゾ是ハ水ニ付テ有道ノ人ノ叟ヲ七ツ

云ニテタルゾト可心得

△居善地トハ水ハ卑湿ノ地ニ居ル有道ノ人ハ下位ニ居テ安泰ナト云ゾ心ハ善

測ハ水ノ深キ處流ノ立ヌ處ナレバ静ナル呈定心ニノ静ナルゾ有道ノ人ノ

心ハ定静ナゾ与フハ善仁トハ仁ハ愛ノ理也愛理ヲ以テ及レ物言ハ善トハ

信々ハ真実ニノ虚言虚妄無キフ之口言語出ノ皆真実ニノ虚言ナキ

呈皆実理之政善治トハ以之治国其国必ズ治吏善能ト云フハ吏業

處作也以之吏々ニ於ク時キ能カラズト云フ無キ動ハ善時トハ以之動

ケハ動フ皆得ニ其時ニ節ニ當ル之有道ノ人ハ善ナルフ如此自ラ以テ是ヲ吾

能ク此ヲスルトセズ水ノ無心ニノ万物ヲ潤ス如クスルゾサル呈夫惟不爭

一云之於天下ニ誰カ争ヌヤ我能作之吾能他ニ異ナリトスル故二人争之

尤人怨ルフ之若不爭天下誰カ怨誰カ争ヌヤ注ニ牽強ト云ハ水ノ上

善カ七ツアルト見タル伎理ハコヤワリ牽引(*)ノツヨキ馬ノ口ヲ横サマニ引

ヨフナ伎理ナリ老子此ノ昏ノ本伎旨ニアラズト云

第九

○持而盈一此ノ章ハ下位ニ居テ不滿高不高滿テ不滿進不レ如退ト云

述タリ初ヨリ譬喩ヲ以テ云ゾ

○持而―此二句ハ一器ニ水ヲ入テ一盃(*)トウド充滿スレバ必ズコホル、物ノ一器ニ滿テ欲ク深ク入テ持タヌトセヌヨリハ其ノ已ムニハ不レ如一盃不レ入マシト云ゾ一盃ノ水ハ溢レコホル、ニ始終持テ詰カタキホトニヤ必ズコボスコホサヌヨリハ前カドニセヨトノ持難キノ苦ヨリ不レ盈持易ニハ苦ミナシト云心ゾ此レ則我身ヲ脩ムル者ハ物ヲ充滿スヘカラズト云茂也

○揣―此ノ二句ハ刀劔ヲトギミカイテ利銳トテイカニモキツサキヲ銳利ニスレバ長ク後マデ久シク利銳力失ズノアル物テハ無イゾヤガテハガヒケ先キガヲレナトシテ結句役ニ不レ立物トナル叟(*)有ルゾサル呈タ、餘リトガヌガマシゾ不利ハ長ク保ツ道ナリト云ゾ

△金玉―此二句富貴ニノ金玉滿堂ノモ其金玉能ク久ク保ヘカラズ

漢ノ韋賢カ子ニ黄金滿テ籬ニヲクラヌヨリハ一經ヲ教ニハ不レ如ト云ゾ此モ

金玉ハ久ク不レ可レ保一經ハ心理ノ宝ナリト云茂ナリ

△富貴―此二句ハ富チ有テ四海ヲ一功蓋ニ天下ニ任ケレバ其ノ罪咎無ンバ

アラズ誤カ出成スヘキノ驕リ極リ物盈レバ必ズ虧クヘキ人若其功ヲ全セン

ト思ハ、功ニ驕ラヌ范蠡カ如ク退ク可キノ不退シテ太夫種ハ終ニ功ニ驕

テ刑セラル、ゾ是則盈テ、アフル、茂也

(6才)

△功―天道トハ日実食シ月盈レバ虧ク此則天道之天道也ニ如此ト云ゾ功成

名遂ト云々ハ其分々ニ随テ大小ニヨラズ可レ有レ之之分ノ功分ノ名分ノ退

可レ有若シ人自ノ心満足セヌト思バ、天下ノ亶盡亶無シ何ノ時ニカ足ラヌヤ

何ノ時ニノ成ラヌヤ涵養シ工夫ス可キ處也孔子家語ニ器欵ノ圖説有リ魯

ノ桓公ノ廟ニ於イタヲシルゾ孔子云此ノ器虚ニノ水ナケレバ欵カケムク 中ナレバ正ク満

レバ覆ヘス明君子至誠トソ常ニ坐側ニ置テ誠トスルゾ是則物ノ満ヲ

悪ンデ之有レ満必覆ス故之子路問云物ノ満ヲ持ツ道有リヤト云孔子曰聰

明叡智之任愚者ノ如クシ功天下ニ蓋フ任讓リヲ以テシ武勇世ニ双無

ク任恐ヨ富貴四海ヲ有スル任ヘリ下ン此則満ヲ持道之説苑ニモ高ノ

能ク下リ満テ而能ク虚是ハ満テ虚ノ如ク高ノ下カ如クト云芟也今此

章ノ伐ハ盈レバ必心溢ル盈テ難レ持ヨリ不レ満中ニカマヘタガ能ト云伐也此

老ノ金言此カ誰カ受用セヌ若人はヲ受用セバ終マテ身全カラヌヤ

第十

△載管魄―是ハ老子ノ只ダ要スル柔伏退歩ニ耳此一章大旨ハ柔底ヲ説尽

之但退歩ノ不ニ与レ汝争ニ心也今此ニ一人ノ人カラメキ呼テヲトリ狂スル者カ居

ラヌニ我ハ只是声ヲ不レ出退歩シテ柔伏スレバ彼ノヲメキ呼ヌデ跳躑スル

者自然二屈スルナリ

△營ト云ハ魂也神ノ營ハ災ノ字ト古字通スルト性理大全ニ有リ營ハ光也魄ハ

水魂ハ火ナレバ災ノ字最モ近シ韻書ニ營ハ宮災ノ省ケルナリト云ヘハ營々^(ママ)

通用ノ魄ハ精也氣也ト注セリ此載營魄ノ三字ハ老子深意ナリト云ゾ

先人ノ生ヲ受テ出生スルノ時ニ魄力載レ營^ヲ凡人衆人トナリ營力載^ルレ魄聖

人ト成ル魂魄ハ天地ノ二氣也今此ニ云專^ニ氣致^バ柔則能ク抱一ナリ抱一ト

云エバ抱ハ合ナリ能ク合テ^{スルヲ}一ト云ゾ分テ云ハ魂ト魄トカニツ合テ云ハ

魂魄一ツノサテ載營魄ノ三字ノ彗ハ營力載^レ魄々載^レ營互ニ載スルゾ

衆人ト成ツタ又聖人トナルモ上下ノ載セウニヨルノ其魂魄ノ二ツヲ合テ

一ニノ能ク堅ク守テ專^レ氣^ヲ致^レ柔居ルカ能キゾサレ任彼ノ魂魄力離

レテ二ツニナラヌカ又合セテ一ツニナラヌカ合一ニノハナルマジキノ六句共ニ六ツ

ノ乎ノ字加テ疑ノ辞ヲ置テ自ラ問ヲ誤^(ママ)也

△載營魄ト云ハ三字ハ文ノ奇妙也互ニノスルヲ委クイワズノ營魄ノ二字ノカミニ

一ノ載ヲ置テ互ニ載スルコトヲ顯スナリ此ノ文至テ奇怪ナル故ニ注ニモ如^ニ謎語^ニ

ト云ゾ謎語トハ日本ニ云ナゾノノ夏ノ謎ノ字ハナゾト誦ムゾツレノニクス

シ忠守カマイリタリケルヲナゾニ作ル吾朝ノ物任見又忠守カナド^(ママ)カケタルヲ

(7才)

唐瓶子トトクツレノコ也

△此載營魄ノ章ヲ蘇穎濱カ解ニ云ゾ神カ魄ヲ載テ行ト解シテ在ル其ノ心ワ

魄ハ是沈ミ滯リタル物ニシテ沈タル物也サルニ依テ神ヲ以テ載テ魄升リ拳ケシ

聖人ハ則以レ魄随レ神動衆人則神役魄ト云タゾ此ヲバ悪キト破シテ在ルゾ

其ノ伎ハ神ハ載レ魄行ハ是則剛強升拳ノ儀也老子ハ只柔伏退歩ヲ

干要トスル呈蘇穎濱カ伎ハ不レ當也ト云ク為レ心得昏レ之是皆載ノ字ノ

謎語ヲ不知載營魄ノ三字ノ上ニ付テ伎ヲ付タルレ朱子カ伎ニ魄ハ是

一魂ハ是二一ハ是レ水二ハ是火二抱レ一火守レ水魂載レ魄動守レ静也專

氣致レ柔只看レ他這個甚麼様工夫專ラ非レ守レ之謂也只是專一ニシテ

無ニ間斷ニ致レ柔是到レ那柔之極処ニ纔ニ有レ一毫發是則這氣便粗

了云云

△此章二句ツ、ニシテ其伎ヲ可見

△抱一トハ能合ノ離レヌ羊ニナサシメヌカ將タ又離テ二ツニセヌカト云ゾ

○專氣一トハ氣ヲ專一ニシテ散動セズ外氣ヲ散サズ柔弱ノ極処ニシテ能

嬰兒ノ如ナランヤ嬰シトハ赤子也乳ノミ子ノ叟也釈名二人始テ生タル曰レ嬰々

胸前也投レ之嬰前ニ乳養故曰レ嬰云云赤子ハ未レ有レ見レ聞其氣專一ニシテ

(7ウ)

散動セザル也專一ノ氣ハ能抱一也

△滌除——トハ滌ハ除也淨也垢塵ヲ洗ス、ク也

△觀覽——トハ玄冥ノ深キ處ヲ見也其ヲ條(マ)——玄ト云也佛書煩惱ノ

塵垢ヲ除キ去テ涅槃ノ玄理ヲ見ト云ト同シ伎也無疵トハ無分別處也

無分別之地力能力能ク無分別ナランヤト云也垢モ塵モサツト拂ヒノクレバ清

淨潔白ナルカ潔白メカセヌ也其ノ處ヲ注ニモ不垢不淨ト云ゾ不垢不淨

ナレハ抱一也

○愛民——乎トハ愛ニ憐ニ萬民ニ治ニ平國家ニ大功ハ尤モ大功也此大功ヲ無為ニシ為レ之ニ■(*)心有レバ能抱一也

○天門——天地ノ間自然理則此ノ造ノ出ル處也故ニ門ト云ツ陰陽開闔雌有リ

雄有リ人ニ取テハ男女也雌雄交感ノ心無キハ能抱一也雌雄交感ノ心無キト

云ヲ以テ養生論流入スルコ有リ老子初意是ニアラズ邪說ヲ以テ世ヲ誤ルコ

多有レ之也此ハ天地造物ヲ借り用テ為喻也実ニ養生家ヲ云ニハアラズ

○明白——聰明叡智明白分明ナレバ四達上下不レ通無シ其明白ノ智ヲ

專一ニノ内ニ守テ無レ知以テ知トスレバ能抱一也

○生之——天地造化之間萬物ヲ生育スル物也其ノ天地カ何ゾ此ヲ見テ

吾カ有トセヌヤ又是ヲ頼テ吾カ能トセヌヤ又天地ハ万物ノ長主タリトイヘ
天地何ゾ万物ノ長上ト思テ万物ヲ主ツル心在ラヌヤ

○玄徳トハ玄ハホメタル亶也玄妙ト云莠也徳ハ其能徳也此ノ一章モ亦大段無
為ニソナシ自然ニシカル亶ヲ專ラニ云ゾ無為自然此ハ人モ其心常ニ空虚
也神ハ虚ナルカタ也魄ハ実ナルカタ也虚ナル神ヲモテトノ虚神ヲ本躰トシ
以レ神載レ魄以レ魄不レ載レ神此聖人ノ亶業也若亦魄ヲ表トシ本躰殿トスレ
バ神ハウラニナリテ迹カ顕見ルゾ有ヲ本トスル故也衆人亶業也此書本
躰ハ能ク実ニノ虚ニシ能ク有ニノ無ナルゾ道ノ至極トスルゾ縦横無窮
ニ云テ色々品カワル^(*)実ニノ虚有ニノ無ト云ヨリ外之理ハ無キゾト云也

才十一

○三十輻一トハ車ハ三十ノクサビヲ以テ一輪ヲ成ス輻ハ以テ為^{タルニ}直指也ト注シタル
輪ヲツクル^(ママ)是ノ木ヲ以テ轂ノモトヘ集タルガ一輪ノナセニ必ズ三十ノクサビヲスルゾ
老工記ニ輪輻三十以テ象^(ママ)日月云云一月三十日ヲ象テ必ズ三十ノクサビ
ヲ以テ一ノ輪トナス也

○轂居輪之正中而為^{アツマル}輻之所^ニ湊^ル此ノ轂中ハ空虚ナリ虚ナル故ニ車ヲヤル也

○當其無一トハ穀ノ内ノ無ナル也虚ナル也或人問^三朱子^三老子経ノ三十

一其無ト云無ハ車ノ坐スル處カト云朱子云恐クハ不然若シ坐スル處ヲ

以テ無トセバ上ノ文ニハ輻ト穀ト以云ヒ下ノ文ニハ戸牖^(ママ)ノ埴^(ママ)ヲ以テ^(*)云一例ノ

語脉ナリ某思フ無ハ穀中ノ空處ナリ此空處能ク受^レ軸運轉不^レ窮ゾ

喻ヘハサシカサノ柄ノ上ニ一ツシマアリ衆^ノノサカ骨ノ集マルシマロクロノ如クト云ゾ

○埴一トハ埴ハ和^レ土也ト注ス埴ハ丞職ノ切シチヨク又ハ昌志切チトモニ^{子ヤス}埴同シ黏

^レ土也子ヤシ土ヲ埴ト云ゾツボヤキガ土ヲコ子テツボヲ作ルコヲ埴埴為器ト云ゾ

○當其無茶碗ヤ壺ヤ杯ヲ中ノ空虚ノ處カ有ルヲ以テ秘藏トナルナリ去

呈無ヲ器物ノ用ト云ゾ

(9才)

注ニ陶一エヌチノハニツ^(子)ヲ子ヤシテスルハ陶ト云テツホヤ茶碗杯作ル^(*)處ノ一也其器

物ハ中ノ虚ニノ圓ナル物也其虚中ナルカ故ニ器トナツテ人ノ用ニモ立ツト云茂ゾト

可心得也河上公カ茂モ此ハ同也

○鑿一室中之通明處ナリト云戸窓ノ虚ナル處ナケレバ室モ不入物也空ヨ

リ明ヲ通シ戸ヨリ出入ノコソ室ハ用ニ立ヘキ也

○故有之一車ト器ト室ト三ツノ喻ヲ上ケテ虚中ノ用ナルコヲ顯也

○五色青黄赤白黑也五音ハ宮商角徵羽也五味ハ醋甘苦鹹也 注二

此五支ヲ拳テ大畧也類ヲ以テ推シ計リテ可慎也色ニモ色欲杯ニモ可レ入也財欲杯ニモ可レ入也如此類也別伐也

○寵(*)—寵辱トハ寵ハ君ノ寵ヲ得支也辱ハハツカシメラル、支也此身寵愛セラレテモ失レ之恐故ニ驚ク也辱ハ尤モ驚也得レ之可レ驚也寵ヲ得テハ失ヌヲ驚辱ヲ得ルハテキ面ニハヂカマシキ故ニ驚也善惡任ニ驚之注ニ若ハ而也

ト云呈シカモ驚也此ノ善惡ノ二支ヲ驚支ハ下ノ句ニ大患ヲタツトフ支ハ此二身(*)ニ若(シタカフ)故也竈モ大患辱モ大患也善惡之ニ支任ニ此身ノ

大ナル患ヲ招ク媒ナル故ニ却テ大患ヲ貴ビ喜茂トナル也

○何謂—トハ竈モ辱モ不レ足物也竈モイヤナ物辱モ尤モイヤナ物之其沙休(ママ)モイヤ

ナ云支ヲ何ゾ謂ヌト云ゾ竈ト辱(ト*)本来一物也竈アレバ必ず辱在ルゾ呈

尤一也誉ハ又ソシリノ元ト云意ナレバ竈辱ハ一雙也呈竈辱一ト云ゾサレ任世

人竈ヲバ好シ辱ハ下トノイヤカル其子細ハ自身ニ好惡ノ心カキサス故ナリ

好惡ノ心在ルニ依テ得之失之皆能心ヲ驚動スル之本来好惡ノ心無ンバ

何ゾ動セヌヤ辱ヲバ得ヌヲ患ヒ竈ヲバ失ヌヲ患也此ノ身ハ我煩也此有

レバ大ナル煩アリ此身無ンバ煩ヒ無シ然ルヲ世人此身ヲ貴トスルゾ若此身

ヲ貴トセントナラバ直身(ママ)ノ貴ブ可キ物ヲ知レ若其ノ真カ身ノ可レ貴
可レ爰知ルナラバ縦令一天下ヲ以テ得ルモカユルニタラヌヤ何ゾ竈辱ヲ

以テ足レリトセヌヤ天下ヲ寄託得トハ天下取りニナスト云倅ナリ

○注(朱)ニ兩ノ何謂ニハ兩意アリト云ハ初ノ何謂ハ竈辱不足言何ゾ謂ン

竈辱ト也決(ママ)ノ何謂ハ大患ヲ貴ブナリ何ゾ此身ニ随テ大患ヲ

貴コヲ何ゾ謂ントナリ林氏逸カ注ノ字面如此欤(*)或人朱子ニ老

子ノ此才十三章ヲ問ヘバ朱子カ曰ク從前理スルコ會ラ此章ニ不レ得云

此段カキト不聞倅ト朱子ハ云ヘ任字面大概如此(*)ニノ可足欤

才十四

○視之——此章ハ道ノ無景迹夷ヲ云ゾ至道ハ微妙ニノ迹無キ夷ト

云希ト云微ト云皆不可見意也夷希微ノ三字ハ分別スヘカラズ見聞

得ノ三ツ分ゾ別ニ夷無シ但是偏ニ景迹無キコヲ云也

○此三——老子自解云何ト云コ二夷ト云何ト云コ二希微ト云ゾ其名上ニ

付テ問難スヘカラズト云ゾ

○故混——トハ何レモ無分別等分ニ混一ト云ゾ

○其上——仰テミレ任不明仰テ看ハ明可キ夷ナレ任不明俯(ママ)ミレバ可

暗亼ナレ任伏(ママ)ノモレ任不味也上下ノ二字拘カ、ワリナツム泥ノ不レ可レ云別ニ心無シ(ママ)俱ダ

此道不明不暗上下求レ任不可見道ヲ云フ也

○繩一トハ多キ白也多ケレ任名ケガタキゾ終ニハ無物也多キ呈有物
 タルヘケレ任終ニハ無物之依之無状之状無象之象ト云ゾ此則惚恍
 トホノカニノ無トスレバ有々カトスレバ無キコト

△迎一随一無始無終也

○執古一其ノスント大初ノ是ノ無ヨリ出ル之其ノ大初ノ無ヲ以テ今ノ有ニ
 法テ見ツント大昔ノ大初ノ道ト云物ヲ知ル可キコト

○是謂道紀ト云紀ハ綱紀也史記杯ニ在ル帝王本紀ナト云類ゾ道ノ

本紀ト云物ヲ知可キコト云ゾ

○御スルトハヤルト云心也使馬ヲ御ト云之今ノ有ヲカリヤリテ見レバ古ノ道ノ
 無カシル、ゾト云々ゾ

オ十五

(以下余白)

(裏面余白)

(10ウ)

(11オ)

(11ウ)

○古之善——此ハ有道ノ人ヲ形容ノ道ヲ明ス之微妙玄——トハ深ク道ヲ明

メタルコソ玄ニ通シ微妙ニ通スルナリト云ソ通ノ字ヲバ玄妙ニ通スルト可

見河上公注ニハ微妙ニ玄通スルト通ニ玄ニ玄ヲカケテ云ソ此注ハ玄

ト妙トヲ一ニ通スルヲバニカケタソ此ノ有道ノ人ハ其ノ中心虚ナル故ニ其ノ

知識ヲ用ル処ナシ其ノ外ニ顯ル、者無心ヨリ出其無心ノ躰ヲ其下ニ云時キ

豫タリ兮猶タリ兮——儼タリ——トウト云ソ豫ト與ト通ノ用タル也容

與ト云ハヤスロフト讀ム楚辞ニアリ注ニハ遲回ノ意也ト云ゾ進マヌ貞也

其ヤスラヒ遲回スル貞ハト云眈冬寒水ノ時川ヲ渡ルカ如ト云ソ水寒

ノ速ニ水ニ入り難故ニヤスロウトソ難渡貞云ソ

○猶兮——トハ猶ハ夷猶ト注ノアル韵會ニ夷猶ハ不行貞ト有楚辞居不

行兮夷猶スト云、此ノ猶ノ字ニハアマタノ芟アリ猶ミトヲトル時ハ曉達ノ

貞也周章夷猶任呉都ノ賊ニアルソ猶豫ト云ハ疑フ事也猶豫ノ未

レ訣ト云疑テ判断セサル也猶豫ハ猿ノ類疑ノ多キ獸也ト云之狐ノ性

ハ多レ疑度河而聽ニ氷ノ声老子猶乎未涉川則是狐類也

韵會ノ注ニアリ然ニ今猶タリ兮若畏ニ四隣ニ是多レ疑未レ訣儀ニ可

用欵河上公注ニハ其進退猶々トノ拘別若三人犯レ法畏ニ四隣知一也

ト云リ猶々トヲトラスル儀尤モ此ノ注ニ叶エリ曉達ノ貞ナレバ(ママ)犯レ法人ノ知
ランコヲ畏ル、カ如シト云ソ

○儼——トハ容ハ客人ノ亭主ニ對シテ儼然トシテ定或ニシテ居ル不ニ自由也凝
定ト注スルキツトシテ居ル事也

○渙(*)兮——ハ渙(クハ)ハ解散スル貞也消亡スル事也ユルヘチル貞也氷ノ散セントシテ未レ散
也ノヒ散ラントスル貞ソ是則道ヲ守ル人ノ貞也

○敦兮——トハ敦(ママ)ハ原也樸ハ渾然ノ意ト云ソ渾然トハ全キ貞也清濁
未レ分渾ト云ソ清濁全クアル貞也欤天ノ沙(ママ)休(ママ)ヲスル時一ニハ曰ニ渾天ト
形如ニ彈丸ニ九地在ニ其中ニ天包ニ其外ニ猶如ニ雞卵(ママ)白繞(ママ)黄(ママ)云ソ渾ノ
字意可知云々

○曠——トハ曠ハ遠也大也濶也空也谷ノ空虚廣大遠濶ナルカ如ク

ト云ソ遠ノ字ノ意ハ勻書ニ不見今ノ板ニ遠ハ遠ノ字誤リナルベシ

○渾兮其若——トハ渾ハ清濁一ニシテ全クスル処ヲ渾トハ云ソ澄トモ不澄濁

ト不濁ノ中ニ於テ全ク持シテ静シテ而後ニ自然ト清潔ナルソ

○安トハ安定ノ能ク其理ニ安住スル者ノハ心ヲ不動安住シ久ケレバ漸ニ後ニ動ソ
ト云事ソ徐生ト云ソ生ハ動ク心ソ

(12ウ)

○誰力能ク濁中ニノ清誰力能安住ノ後ニ動ン

○保此道——トハ此ノ道ヲ保持スル者ハ其中心常虚也虚ナルカ故ニ故^{フル}キヲ

見テ故ニ居テ新ナラス依レ之千歳モ如ニ一日也如此工夫功成人ハ道ノ大成
ヲナス成ノ字ヲ一句トシ儀能ク通ス

第十六

○致虚——致トハ極ムル至ソ致虚トハ致知格物ノ文法也道ヲ学シテ虚ノ

処ニ至極スレバ静ナル事ヲ守ル至篤固也能虚能静ナル時万物出生ス
ル義有ル也虚ナルハ先スル方ト云事ソ初ヨリ此ノ儀也常無常有ノ

段ト此ノ儀ト同キ也

○吾以觀復命^(ママ)トハ復命也人ニトツテ復命トハ死ノ方ノ万物ニ取テハ根ニカエ
ルギ也

○芸々トハ芸ハ盛ニシケル草ノ芸ミトツカウトキハ物ノ多貞也万物ハ芸々ト

多レ任皆根ニ皈シテ滅スルソト云ソ滅ハ静ナリ生ハ紛々タリ静ヲ

復命ト云ソ滅スル方ゾ滅スル所ノ理ハ不変不易也是ヲ常ト云ソ

無^{レバ}常明也^(ママ)不^レ知^レ常妄タリ作事アリ凶惡也常ノ道ヲ知レバ常久ノ不易

也常久ノ不易道ハ明也常ヲ知レバ天地ト躰ヲ同ス天地ト大ヲ同万

物ト容ル、ニ不_レ狡能容ト云ハ含容スルソ万物ト含容シテ何_レニカ私
ヲセンヤサルホトニ公ナルソ王道也私アル王道ニアラス公道ヲ以テ王タルハ天ト
道ヲ同ス天ハ即チ道也人若此道ヲ得バ無_レ非_レ道此道ヲ得テ天下ニ居ハ
安住安穩也何ソ危殃ナル_レアランヤ上天子ヨリ下万人ニ至マデ皆壹
是如此大学ノ文法也可明_レヲヤスシ

第十七

○太上——太上トハ上古ヲ云也下知有也_(ママ)天下有ル_レヲ知ルナリ葛天氏ノ民

カ無懷氏ノ民カト云タ如クテ天下ト云事ハカリヲ知テ相親_ニ相譽_ムコ
モ無キノ之トハ君ヲ指スヘキ欤民ノ君知タル分_ニ齋_イイマダ親譽ハナキノ

○其次——トハ其後道漸ク衰テ始テ万民カ君ニ於テ親譽ノ意アルソ

○其次——其後次第ニ衰来テ民カ君ヲ恐_レ君カ民ヲトスアリ

○其次——トハ次第ニ亦衰テ狎玩テ侮蔑スル意カ有ルソ此ハ道次第ニ衰ルニ依

テ人カ悪クナル_レヲ云ソ去ルニ依テ天下国家皆不_レ信心出来シタルソ例セバ
注ニ引商人ト云ミ作_ト誓尚書ノ湯誓篇ニアル事カ此ノ日曷_{イツクシカ}喪_ト予及_レ汝

皆亡_ン夏德若_レ茲_ノ朕必往_ント云云周人云云作_レ會武王繼_テ為西伯_一諸侯

飯_レ周_ニ會_ニ武王_一觀_ニ兵_孟孟津_ニ者八百国皆謂_レ紂可伐而武王凜_{タリ}

示_レ天下_ヲ退_テ守_ニ西伯_ノ分_ヲ自_ニ丁卯_ニ至_ニ戊寅_ト又十二年既而天下無一人能堪_ニ
紂_ニ於_レ是紂為_ニ獨夫_ニ諸侯_レ叛_レ周者不_ニ止_タ八百國_ニ云_ニ此_ノ則殷周_ノ

衰へキ事ノ起リ也是ヨリ叛ク儀アリ疑儀アリト云ソ

○故信——信_{カシ}少_シカケヨリ不信ニナル也少ヨリ大ニ至ル物也

○猶夷猶也トイヘリ猶ハ安然ノ意也ト注ス貴言トハ浮詞ヲ專ラ貴ノ莠也

○功成——此ヨリ上古ノ時ノ事ヲ又打カヘシテ云ソ上古ニハ功成事成テ受ル任

ナケレ任賜ヲ受ルソ自不知皆曰ク我レ自ラ如此可_レ然理ナリト云ソ

井ヲホリテ水ヲ呑田ヲ耕シテ食フ帝ノ力何レカ有ント云タゾ浮

言浮詞ヲ貴ノ非ヲ云テ此ノ句ヲ以テ上ノ文ヲ結スルソ是則是

古非今儀也今ヲ悲ヒ哀テ古ヲ思ヒ慕儀也

第十八

○大道廢——トハ大道ノ世ノ時ハ其レ仁其儀ト云ハ子任自然人々

ニ仁儀生ナカラニソアリ何ニヲモ仁ト言何ヲモ義トイハン不仁不義

ナキ故也白昼ノ時ハ灯ノ名不入也無病ノ身ニ藥ヲ不用也然

則大道ノ世ニハ仁義孝忠自然トノ其中_ニ在_ルソ_ト扱_テ漸ク大道

廢破メ仁義ノ名立ツ仁義ノ名立テ道漸ウスク成破ル、也

○智惠——譬喻也喻へハ智惠ナケレバ偽ヲカサリ立へキヤウナケレト智惠ヲ以テ巧^レ言^レ令^レ色偽ノ生スル如也

○六親——祖父祖母叔父姨母又ハ父母妻子兄オヲ云ソ上世ノ大道

行ル、時ハ家ニ孝不在^レ一人々忠切アリ何ヲ^(*)カ孝慈ト云ン孝ハ子

ニ子^(ママ)ケ慈ハ父ニカクルソ而ルニ六親不和ノ孝慈ノ名出テタルソ国家——

同義也国治平ノ時忠臣不見乱世ノ時ニ至テ可^レ見^レ之云云勁松八年

ノ寒キニ顛^レ忠臣^シハ国ノ危ニ見ルト云義也智惠ト云ヨリ以下ノ三句ハ喻ヲ出ッ上ノ一句ヲ發明スル也

第十九

○絶聖棄——聖ト云智ト云名カ出テカラ天下ニ大ナルワサハイトナル也但タ聖モナク智モナクノ万民ノ為ニハ利カ聖ト智トアルヨリ百倍マシタリ

○絶仁——ト仁^ノ名出テヨリ孝ノ不孝ト云^レカ子ニアルソ慈悲ノ無

慈悲ノト云^レカ父ニ有ルソ此ノ分別門ヲ打破テ慈悲ノ名^(*)モナク仁^ノ名

モナキト^(*)キ道ト共ニ相忘ル、ハ人孝慈ノ中ニ処^レノ無^レ所ニ分別ニ無分別地ニ処スル時孝慈夫ノ中ニ在ルソ

○絶巧——財貨ヲ貴フ故ニ民盜ヲ起ス金玉ヲ道路ニヲカハ誰盜ヲナサンヤ

(14ウ)

○此三者トハ聖智仁義巧利也

○文トハ文質ノ文也カサル心也有道ノ者ヨリ是ヲ見レバ皆文ニノ其實体ヲ失フ

(15オ)

○不足トハ用ルニ不足ノギ也用テ以テ天下ヲ治ムルニ不足ト云也

○故令有——但夕万民ヲ合セ(ママ)娶(ママ)テ此ノ万民ニ素ヲ自ラ素質ニカサラ

又処也樸ハ淳朴也朴ト樸ト同用ユ私モ無ク貪欲モ無キ上古ノ時ノコト

クナラバ天下無マ妄ナラント云ソ

○属ノ字注周礼属民讀法之属トハ周礼ニ曰列ノ長属ニ其邦之民マ而

讀ニ邦ノ法ニ注属ハ猶合也聚也ト云ミ属ノ字ハアツムル也合スル也(*)此ノ段ハ尤世ヲ

憤激スル心ニ云ヘルナリ可(ママ)足云

第廿

○絶学——学ハ儒ニハ道ニ至ルト云モ今此(*)絶レ学ヲ帰レ無ニ無レ憂ト云ソ

人ノ学ハ善ヲ以テ悪ニ勝ト云ソ学ヲ善トスレバ却テ学ニ落テ道ヲ失

ホトニ絶学カヨイソト云ソ古ノ道ヲ知ル者ハ善悪レ作サス

○唯モ阿モレ託ニ諾也ト云テレ託ニ物ヲ合点スルコニ用ル字ソ善ト悪ト云言

ノ前ハ不同アレレ託共ニ不可用唯ト与レ阿不同アレレ託相去ルコイクハク

ト云テアマリ不遠ト云ソ善ト与レ悪レ託ニ唯ト阿トノ相去不レ遠如ク也

(15ウ)

○人之所畏——サレ任人所^ハ畏我モ可^レ畏也古ノ道ヲ智ル者善モナサス惡モ

ナスベカラスサレ任^{シヤ}无^レ所^レ畏惡ヲバ人皆畏ル吾モ惡ヲバ可^レ畏也若畏ルヘ

カラストセハ夫レハ打破ニナツテ荒乱ニナル也至極荒乱ノ極リ無キコ

○夫レヲ荒タリ兮其未^レ央哉ト云ソ注ニ云如ク禪家ニ不合点ノ者カ豁ク^{ナルベシ}

然大悟ナト、云テ因杲ヲ撥無スルハ大惡邪見也老子ハサヤウニ人

ノ畏ル、処ヲ不^レ畏惡見ニハアラスト云テ^(*)莽と蕩々と云ハ莽ハ杜預曰

草生ニ廣野ニ莽々然タリ蕩々ハ法度廢壞ノ白蕩々ハ廣平ノ白也

侖吾民蕩々無^ニ能^ク名^ニ云々詩蕩々上帝ト云々

○衆人——トハ世人ノ世味ヲ樂ム豈太牢ノ味ヲウクルカ如キ也^(*)春臺ニ

至ルガ如ク也ト云ソ太牢ハ牛ヲ用ルコ也牛ヲ曰^ト大牢一羊ヲ曰^ト少牢一羹^レ藜^レ合^レ

糗者不^レ足^ニ与^ニ論^ニ太牢之滋味ニ云時ハコキウマキ味ヲ大牢ト云也春臺ハ

和氣ヲ得タル儀也

○我獨——トハ泊タリトハ淡泊無為ノ儀也我獨老子カ我レト云ソ此老

子ハ百念不形嬰子ノ如ク也孩トハ已^ニ長^{タルヲ云ソ成長セサル赤子ノ}

如クト云ソ心ノ外ニアツテアツカラサルコ赤子ノ未^ニ見^聞ニ如ク也無^レ知^無識無^レ

恐常寂也

○乗トハウコクカ如クニシテ不動ノ貞也

○衆人ハ世ノ多餘ヲ求ル心アリ此老一人万紛ヲワスル、也

○我愚人——回ハ愚ナル如クト云ト同ト也愚痴無智ノ者ノ如ク也豈是愚鈍無智タランヤ

○沌——ハ無知ノ貞也渾沌ノ心也我カ道ヲナスコト不レ足以テ為レ樂ト其餘ノ心ナキ也我ハ愚ニ人ハ智アルニ非ス

○俗人昭——トハ人ハアキラカテ我タラント云^昏也^昏ハクラキ貞也

○察々ハ昭々也悶々ハ沌々タリ世人ト異ナルト如此ト云ソ

○澹兮其心淡泊ニテ大海ノ中ニ舟ニ乗リ洋々トノ風ニ逢テ止リ宿スル処ナキガ如ク也颺トハ高風也戻ル風声也潘岳賦清風颺戻云

○衆人ハ有以——トハ世人有為也我無為也我レ焉^{ラカ}求ソノ心ソ

○我独——頑鄙トハヲトロカニイヤシキ也此老真頑愚卑鄙ナランヤ回カ愚鄙^ニキト云カ如キ

○我独異——世人トハ各別也

○貴レ求食——我カ人ニ各別ナル処ハ我レ未レ於レ道有名ハ万物ノ母トイヘハ

則道也道ヲ求ル也道ヲ求ルコトヲ味ルヲ為レ貴ト也食ハ味ルコト也母ト云ハ道也別焉^{ナニラカ}求ソ何ヲカ樂ソ道ヲ味トノ道^糸ヲタノシム也是則世俗ト各異ナ

(16ウ)

○孔德之——孔ハ盛也ト注スルホトニ盛德ヲ孔德トシタソ河上公ハ孔

ハ大也トシタソ儀同キカ德ノ字如レ注ノ可レ見大學ノ抄ノ儀ト同シ此ハ
知道人但是其形容如此ノ但是道カ其人ニ從テ容チニ外ニ見顯スル也

注ニ云孟子ニ曰動——トハ孟子尽心之篇ニ有ルソ曰堯舜ハ性ノマ、ナル者也

湯武反レ之也動容周旋中^{ケル}レ礼盛德之至ト云ハ儀少異ト云ソ老子ノ儀ハ動

容周旋礼ニアタラヌヤウナル躰ニ見ユル也是則道ノ躰也タメツシツメツスルハ惡

キヤウニ云フ故カサテ次ヨリ道之為^レ物ト云テ此ヨリ下道ヲ形容シ出スソ

○唯恍——トハ道ハ不^レ可^レ見恍トシテ惚タリサレトホノカナル幽冥ノ中ニ物無キハア

ラスカツキト其理アリ其形アルホトニ其ノ中^ニ有^レ象ト云其中ニ有物ト云ソ

○窈——窈冥^トニクラキ貞也物ノ明ニ不見心ソ其ノ不分別ノ地^ニ有^レ精其精

至リ甚シフノ真ナリ見則虚言虚説ニアラス故ニ其中^ニ信アリト云ハ信ハ

眞實也非^レ虚ニ恍惚窈冥ノ中ニ象アリ物有リ精アリト云ハ前ノ七章ノ

注ニ云ヘル真空實有ト云ト同事ナリト云ソ 其ノ^{シヤウ}甚——有信ト云

八字兩句ハ無物ノ真空ノ中ニ實有ノ物アルコト虚言トスヘカラスト云コトヲ明シタソ

○自古——トハ道ノ名ハ往古ヨリ今日ニ至ルマテ有ツテ一日モ不^レ離去^可

○以閱_ニ衆_一——ト云ハ万善皆由_レ此出ツルト云ソ閱ハ注_ニ歴閱ト云ソ韻書_ニ閱ハ経歴

也トスルソ又容也衆甫ハ衆美ト注ス韻昏_ニ甫ハ男子美称也又大也衆ハ多

ノギ_ノ甫_ノ善_ノギ_ノ万善ト云ギ_ノ万善往来経歴_ノ此道ヨリ流出スル也

○吾——吾イカント_ノカ万善ノ往来_ノ出ルトシアル_ヲ知ランヤタ、此ノ道_ヲ

以テ知ルソト云ソ

○以_レ此ト云ハ道_ヲ此_レトサス也ト云

第二十二

○曲則全——能ク曲ナレバ能ク全キ也曲ノ内ノ全ノギアリ此ノ老漢ノ語意分明ナラスノ

是儀其中_ニ有ル文ノ一例也

河上公ハ曲_レ己_ヲ從_レ衆_ニ不_ニ自專_ニ則全ト注セリ是ハ古注ノ儀不_レ可_レ用黏着

シタル_レ也曲則全ノ儀ヲ取カ子タル_レ也カ曲ナル物ハ全キ_レ也カ曲内_ニ含蓄_ノ

アルヘキ也何ソ自他ノ見解_ヲ着_シヤ_レ而_ト句面分明ナラサレバ為_ニ心得_ニ書ス若シ古

注ノ如クナラバ其ノ儀カク_レ無シ_レ往見_云

○枉則直ト同上抑ヘ枉クル也サヘ枉_ニハ則直ナル事可_レ有サレバ注_ニモ能枉_ニノ而後_ニ

能直也トスル也

○能_ハ雀_ハ——ハ能_ハ弊_ハ——雀_ハ鳥爪切溝也又於佳切_モアリ_ハ雀_ト通ス_ハ汗_ト通スル

ソ孟子ニ智足テ以テ知聖人汗云

○弊ハ（*）ト三字通用ス敝ハフルキト前ノ段ニ注セリ此ノ章故ト新ト可レ對也敗也トアリ故ノ儀アルヘシ弊ハ死也トアリ故儀アリサレバ注ニハ能（*）雀ナレバ能ク盈能弊ニメ能新也皆是不足后ニ有レ餘儀也空ナレハ有ナル意也喩ハクボキ処ニハ水タマルクボキハ不足ノギ也水ノタマルハ有餘（*）也弊敗零落シタル家ナトハ不足ノギ也後ニ新建立スルハ有餘ノギ也

（18才）

○少則得多——トハ儀同上注ニ二句トスヘシト云リ此則二句タルヘシサレト少ト多ト對スルトキハ一句トスヘキ也一句ノ時ハ文窒礙ノ不通也

○是以聖人——聖人所レ抱道理但ターツナリ是天下ノ法或也一者道也

不自見等ノ四句ハ其ノ有トセハ有ラ有トセス有レトムナシキカ如クノギ也有長

トハ久キコ有リト云ギト注ス如レ此說トイテ初ノ曲則全ト云句ヲ引起（*）メ下タニ

於テ結スルソ元來天地ト我ト少モカケタル所ナシ我但全（*）此ヲ

天地ニ

（以下余白）

（18ウ）

カヘスヘキ也自餘事何事カアツカラント云、

第二十三章

○希言——此ノ四字ニテ天地ノ事ヲ述タリ天地ノ間万々千々^(ママ)挙テ数フヘカラスサレ^レ任可^レ言不^レ多天地ノ理ヲ尽ヘキハ此ノ自然ノ二字也自然ト云二字ノ外ヲハ不出万言万荅モ不入事也サルニ依テ希^レ言ト云也希ハ少也

○故飄——云ヨリ下天地ノ間ノ叟業ヲ述タリ曰ク飄風ハ回風也旋風也

○驟^(ママ)丙ハ驟ハ数也走也シバくフル雨也飄——驟——ハ誰カスルソナレハ皆天地ノ叟業ニノ天地ヨリ是ヲ作スソ然^レ任不^レ終^レ朝不^レ終^レ日風モ雨モ朝ハカリ吹キ

夕ハ不^レ吹夜ハカリフリ晝フラス暮ニ不至日ノ内ニハル、叟モアルソ况^{イハシ}ヤ人間ノ得失窮達又豈常住ナランヤ必得アレハ失アリ窮アレハ達アリ初

終リ常住ナル事アルヘカラス

○其事ヲ孰カ為^{ナス}レ此ヲ天地ナリ天地尚不^レ能^レ久尚ト云ハ天况ヤト云人間天地^地デツノリ况ヤト人ニカケタリ

○従事ヲ於道——トハ是^(*)ハノ学^レ道者ヲ云テ叟ヲ道ニ従フト云ソ

○道者同道トハ——道ハ行ク也則行也我亦無違道随順スル同トハ皆随順

ノサカハヌ茂也

○德者——德得也可得則得我亦隨順也同得也

○失者——トハ伎同上云、

○同於道——トハ我レ道ニ隨順ノ無違ナケレハ道亦互ニ得之云、行モ止モ得モ失

モ我皆樂也古詩得莫一忻々一失莫一悲古今ノ人更落花枝桃紅李白

薇紫問着春風一捻ニ不知此說ヲ作ル知レ道人カ

○同於道——云ヨリ道方カラモ樂ムト云伎ニ見タリ失ト云マテ一例文也不レ及レ抄

○信不足——トハ知道人ハ如此也然此事信カナケレハ其伎ヲ信スル者カ

無キ也信得及ノ及ハ至也正ク善可ナルヘキ也若不信ナル事少モアラハ此処

ニ於テ争テ此理ヲ信得セン

第二十四

○跛者——此先二句以テ喻ヲ拳テ云タソ跛ハツマツルナリ足ヲ地ニツケス

ノ指ノサキニテ立ツ更也淮南子ニ跛行喙息ト云注ニハ音吉トモシタソ足ヲ

ツマツツレハ久ク立事カナラヌソ

○跨——サシマタク也兩ノ股ヲハタケハ左右ヘフンハル事也左右ヘフンハレハ步行スル

ヲハナラヌソ如レ此ニツ譬喻ヲ拳テサテ下ニ

○自——自——此ノ四句ハ皆是其ノ有ヲ有トメ有ニ有心ナル故不レ化也

(19ウ)

○不明トハ我レ自ラヲホフ敵也

○不(ママ)顯トハ我名自不顯也

○不長トハ久シカラサル也注ニ易ヲ引易象曰亢龍有悔ト云盈不レ可レ久ト云ヘリ

アガリスクレハ必アシ、物充滿スレハ必スカタフク盈レ虧天道ノ莪也

○其在道トハ——云ハ上ノ四句ノ自是自伐自矜物ハ至道ニ在ツテハ物ノアマリタル

物也注ニ餘食贅行皆長物也ト云ハ長物トハ物(*)ノアマリタルヲ云ソ沙門ノ

戒法ニ三衣六物不畜餘長ト云コアリ六ツヨリ外ニハ持タス其ノ餘ノ長物

ヲハ不畜ト云也本草綱目ノ序ニモ解ニ其(ママ)莊衣ヲ無レ長物ニ但此本草ハカリアルト云ソ

○餘食ハ如文食物ハ食ノコシ贅ハセ肱ト云ハコブナトノ如ク也

○物故——有道人ハ無レ跡有レ跡餘食ト云テクライノコシノ棄物ノヤウノ人

身ニ肱ノアルヤウ也人必イヤナルニ惡レ之也ハ有道者不処也注ニ莊子駢拇之篇ニ

アリ駢ヘン拇ホ技指出ニ乎性ニ哉而侈ニ於德ニ附ニ贅ニ縣ニ疣ニ出ニ乎形ニ哉而侈ニ於性多方ニ

仁ニ莪ニ而用之者列ニ於五藏ニ哉非道德之正ニ也ハ是故ニ駢ニ於足ニ者連無用之肉也ニ

技於手者樹無用之指也多方ニ駢ニ技於五藏之情ニ者ハ淫僻於仁莪之行ニ而多ニ方ニ

「手ニ六ツ指アル者ハ五ツヨシ無用ノ六ツ指不入物(*)也」「仁莪ヲ用ルハ五藏ノ情ニ
「五藏ニ五行ヲ配當スル内ニアニアラスト云
「自然ノ正道ニアラス
「ソレニインヘキトヲホレタルカタナリ
「大道ヲ以仁莪ヲ見レハ人ノ六ツ指ノ如也
「人ノ五常ニ多
ナル
コト
也肉(*)

(20才)

於聰明之用_ニ也如此有_リ委_クハ往_見云云有道ノ眼ノ前ニハ仁_茂尚_駢拇_技指也况ヤ自見自是等ヲヤ食之餘棄形之附贅_{フセイ}縣疣之如ク見_レ之争_カ此有道ノ人此ノ処ニヲランヤ有道人ハ迹ヲ以テ累トセサル故也

第廿五

○有物——此二句ハ無極ニ_{トハ}太極ヲ云ソ有物——則是道也

○先天——生トハ無極ハ天地ヨリ先ニアリ天地モ此無極_ニ太極ナル処ヨリ出生スルソ

○寂——_{トハ}眼ヲ以不可見也_{トハ}不可見_レ有_レ二体色也

○独立而——_{トハ}常ニ久_クノ不_レ變不易ナル道也

○周行——行健トスクヤカニ_{トハ}暫モ不息停也

○可以——天下ノ万物モ此ノ一理ノ道ノ母ヨリ出生スル也

○吾不知——_{トハ}此出生スル処_(ママ)ソ母ノ御名ヲモ不知何トカ名ヲハ付テ可_レ申名ヲハ付

可_レ申ヤウナケ_レ任_レ字_レ之曰_ニ道_{トハ}殿_(ママ)字_レ之曰_ニ道_{トハ}トハ表德号ト云_レ茂モアリ此ニハ名

ノ代ニ云心ソ

○強ト云ハ道ト云モイマタ不足也其ノ伎ヲ尽シカタシ強テ是ヲ大ト名ヲ可_レ申

也大ト云モ亦不足也大ヲ亦逝ト可_レ申也逝ト云ハ往也追ト逐フヘキニアラ

ス也逝ト云テモ不足也是ヲ亦復遠ト云ヘキ也遠ト云意ハ遠ク遙ニ_{トハ}近

ツキカタキホトニカク可申也遠ト云テモ亦タ復不足也名反ト付ケ可レ申也
反ト云ハ復シテ皈ニ其根ト云意テ付申ス也莊子此類尤モ多ト云ソ莊子ニハ
此例不レ一故不レ抄鼓舞ノ文ト云ハ様々ニ面白クカヘタル処ヲ云ソ注反ト云ヲ自
反スルト取ハ非也ト云ソ河上公注ニ言其遠トハ不起絶ニ乃復反ノ在ニ人身
也ト云ソ是モ注モ或ハ伐也不可用也云、

○道大天大地大王大ト云是ヲ域中ノ四大ト云ソ域ト云ハ方域ノ義也王モ

其天一大ノ一ツ也ト云伐王処レ一焉ト云ソ王カオ一トハ不可見也人ハ法レ地
地ニ依人有人中王アリト云伐ソ然ルニ人中ノ王ト云吏ハカリヲ知

(21才)

テ王ヨリカミヲハシラヌソ王ヨリ上ノ大ナル者ノ三大アルソ天ト道ト自然ト
ノ三ナリ自然殿ヨリ上タル物ハナキノ如此云テ道ハ自然ニ至テ至極頂
上也自然ニシタ者ハナシト云吏ヲ明ス也此レ老子ノ竒筆竒論也

第二十六

○重為輕——此ハ重輕靜躁トノ對ヲ云テ落着ノ処ハ知レ道知レ自然ニ知レ自然ニ

靜モ無重モ無ク輕重靜躁ノ間ニカ、ハラヌ吏ヲ云ソ重為ニ輕根ト云ハ輕ハ重ヲ根本ト
スルソ靜ナルハ躁ノタメノ主也靜ハ主人也君根ト云君ト云皆根本ノ義也

○是以——君子ハ有道人也有道人ハ終日終夜行任輕重靜躁ノ間ニカ、ハラ

又ソ輕モ重モ靜モ躁モ無キナリ

○不離トハハ(ママ)離麗也注ニシタソ易ノ彖ノ傳ニハ離麗也日月麗ツキ乎天ニ百穀草(*)

木麗ニ乎土ニト云、

○蚩有榮觀トハ有道ノ人胷中ニ所觀天下ノ美ヲキワムルヲ榮觀ト云ソ

◇◇ノ壯觀ナト云文法一例也此ノ榮觀有レ任燕処——ト云ハ居レ之以スル安ヲ

也燕居ト云ハ靜ニ安泰ニ居ト安ノ伎処トハ居也夫子燕居ノ文法也起(ママ)

然ト云ハ輕重靜躁ノ外ニアル心ソ四ノ物ヲ起(ママ)越スルレ

○如何万乘——帝王ヲ万乘ノ主ト云ソ千乘万乘ノ伎ソ如ニ論語類款カ(ママ)老一云、

帝王ノ身トメ我カ身ノ重事ヲ不知事物ニカラメラレ事物ノ外ニ起(ママ)越スルレヲセスンハ

必ス輕躁ノ失アルヘキ也

○輕則失臣トハ其ノ臣下ヲ以テ天下ヲ服スルレコナキソ

躁則失君トハ自其身失也失レ所レ主トスル也以ニ天下ニ為レ重ト以レ身為レ輕

トト云トテ以レ身輕天下云ソ近比文法奇怪也難レ到書也身ヲ重

トスレハ則知レ道知レ知自然々々則無レ靜無レ重モ況ヤ輕ト躁ト有ランヤト

云ソ注ノ如ク書ス別レ无之也

○善行無——此五句喻拳自然以道トスルトキハ力不レ用自然然_ニ然_ニ也

云ソ○善行トハ善ク路ヲ行者ノ轍迹ナキノ轍ハ車ノ跡也車輪ノキシリタル迹也河上公カ注ニ善行_レ道者ハ求_レ之於身_ニ不_レ下_レ堂_{ヨリ}不_レ出

レ門故無_ニ轍迹_一云、

○善言——トハ瑕ハ玉ノキス也謫ト謫ト通ス_マ討也責也禍謫ト熟語柳文ノ

徵_ト各ノ賦ニ見タリ災ノ芟也_マ訓也河上公カ注善言者謂_レ折_レ言而出_レ之則無_レ瑕_ニ疵_ニ謫_ニ過_ニ於_レ天下_一也

○善計——_{トハ}籌策トモニハカリ_コ也謀計ヲメクラス_コ也而今云善計_ル者

ノ多ノ謀計ヲ不_レ用也河上公注善_レ道計_レ吏者守_レ一不_レ移所_レ計不_レ多不_レ用_ニ策_ニ籌_ニ而可_レ知也云、為_ニ心得_レ河上公注ヲモ書ス捻テ此五句ハ同意タルヘシ以_ニ自然道_ニ為_レ者善計モ自然ノ理ヲ得ル故ニ不_レ可_レ用_ニ計策_ニ善行不_レ用_ニ車轍_ニ善言_ニモ無_ニ瑕疵_一

○善閉ニモ関鍵ナシ関鍵ハ戸ノ要枢ノ木也関ハ以_レ木横持_ニ門戸_一也亦門杜也扃也捷ハ鍵ト通ス門ノ杜也月令脩_ニ鍵閉_一ト云_レ眈_ニ金_ニヘン_ニニスル_ソ

○善結——トハ繩ハナハ也約ハヤクノ音ノ時ハツ、マヤカ也ヨウノ音也周礼ノ司約注約言語之約束ハ約音於妙切束詩注切世_ニ言語ノ諾約ノ時_ハヨウシユト

(22才)

云へキ事也史記ナトニモ約束ヲヨウシユト皆点セリ約ハ纏束也繩

〔約〕ハマトヒムスブ芟也善結モノハ繩纏ナワメホトケヌヤウニスル也河上公注

(22ウ)

善以道結事者乃結其心不_レ如_二繩索_一可得解也云、繩ヲ以テ結フハ能クトク

へキ也道ヲ以テ結タルハトクヘカラス也關鍵ヲ以トチタルハ開クヘキ也道ヲ以閉

タルハヒラクヘカラス也河上公カ注ハ關鍵ノ伎ハ一例セス閉_二情欲_一守_二精神_一

注ス不可用皆一例可見以_二自然_一為_レ道時ハカヲ不入カヲ不用迹ヲ顯サ

スト云伎也

○是以至人——至人ハ衆人ト名異也名異ナレ_レ混同ノ_レ但是_二居_レ至人自_レ

異心ヲアラハサス其形ヲ異セサル也サルニ依テ至人道人ヲ救フ也其物ニ

於テモ人ニ於テモ棄テサル也此ヲ和光同塵ト云ソ其和光同塵曰

襲明_一襲ハツ、ム也光明ヲ襲包ノアラハサヌソ注_二莊子所_レ謂_レ滑疑追可

レ_レ老_レ云、莊子齋物論篇是故_二滑疑之耀_一聖人之所_レ函也為_レ是。用_二寓_一諸

庸_一此之謂_二以明_一云云 不用故_二衆庸中_一寓居スルソ不用無_二愛威_一愛ナケレハ道虧ナシ至人只此理ヲ明得タリ

○故善人不善——善人ハ人ノ師範也サレ_レ不善人ノ者ナクンハ誰カ善人ノ善

タルヲ知ランヤ不善人ハ善人ノ資助也資トハ不善ニ依テ善ヲ分チ見ルホトニソ

黒キ物アレハ白キ物イヨク_レ白クミユル芟也敬夫カ曰老子ノ云不善人ハ善

(23オ)

人ノ資善人ハ不善人ノ師與下孔子見レ賢思レ齊見ニ不賢ニ内省之意上不同為下

老子不レ合ニ有レ資レ之意不善上也云、此善不善以上ノ句無レ棄レ人物棄「无ト云意ヲ發シ顯ス也

○不貴其——若善人ヲ棄テ物ヲ棄テハ師有リ任貴「ヲ不知不善

人ハ善人ノ資トナル資トナル「ヲ不知愛スル「ナシ其資ヲ愛スル「ヲ知サレハ自身ニ智慧カアリト云任不知不「知迷ノ大ナル者也此道ヲ知ルヲ干要ノ妙道ト云ソ

二十八

○知其雄——トハ此雄雌勝負カヘ言也勝不「求知レ雄守レ雌云ソ天下ノ大

勇者タリ任勇ヲハ不「顯其雄知不「知ヤウニスル所也

○天下谿トハ谷下アツテ萬水集リ皈スル所也知レ此スレハ天下ノ皈伏スル

「谷水ノ来リ集如クト云ソ

○天下谿トノ常德——トハ常ハ不変不易也道不変不易ヲ我カ徳得

タル処ヲ常德ト云也

○不离トハ少モ無ニ断絶ニ処也

○復皈嬰兒トハ嬰兒ハ赤子也赤子無知也無為自然ナル「ヲ嬰兒ノ如也

常德シハラクモ不離嬰兒ノ無知タル如クナルヲ以テ能トスルソト云ソ

○知其白——トハ上文ノ一例也白ヲ知テ白不居黒ヲ守ル也雄ヲ知テ雌ヲ

守ルト一例也白ヲ知テ守黒黒白心ヲツケサル也不分別也此雄任此雌

任此白任此黒任不分別地也此則嬰兒ニ皈ノ不拘聞見処也

○為天下或トハ或トハ法度法或也天下ノ法或トナリテカノ常德ノ理ニ不

相違也白黒雄雌是非分別スレハ常德違也有分別地ニ落也不

或トハ無差失注スル也聊モ有分別セハ常德ヲ失フヘキ也ト云ソ

○復於無極トハ無物也ト注スト無極ハ形色相良ナキ也元始一氣自然ノ

無極也老子虚無ト云ハ形アラサル先自然理ト定テ可見

○知其榮——トハ知榮守辱トハ上ノ一例ノ文也

○常德乃足如此成就工夫スル時ハ彼常德満足ノイサ、カ無差失スルハク皈レ樸ト

ハ淳朴ト云テ形色モナク萬圓モ無也天地ノ始ノ又始也

○撲散トハ淳朴ノ本始ノ一氣分破ノ天地ノ形ノ器モ出來シタリ器トハ形ノ

亘也出アル木ハ一ノ樸也其レヲ伐リ取テ工人カ引テ御器トハ形也皿ヒヒニ作

ルハ器也木破レサレハ器物シ一氣已ニ分破ノ天地萬物ノ器物様々出生

スル如也其ヲ樸散ノ為器ト云ソ

○聖人用——トハ形チ出コヌ先ヲハ道ト云形イテキテ器ト云ソ用レ之トハ聖

人ハ形ヨリ上ノ彼道ヲ用ユルソサルホトニ此聖人ハ官位中ニテオ一頂上
ヲヤカタ也ト云ソ官長タリト云ソ形イデ來リテヨリ後ハ天地ノ間タ各

官職アルソ天地モ一官ノ内也ソレハ何モノ、ツカサヲ持ツソトイヘハ造

化ノ一官守ト云テ萬物造化官也聖人ハ天地人ノ三才ヲカ子テ萬物ヲ統御

スルソ注職覆——トハ覆天載ハ地也命我聞聖人我聞也サレハ聖人ハ

天地ノ間官タルニ物者頂上ノ長者也

○故大制——トハ道ヲ以テ物ヲ制スル大制ト云ソ大制ハ不離ト云ハ道不ニ相

離也聖人其ノ跡道也無為ニ為ハ自然ノ然ルハ是聖人ノ亶業也注莊子官

天地云、詩無然（*）歆羨（*）歆（*）ハ欲之動也羨愛慕也人心有レ所ニ畔援ニ有レ所

歆羨則溺ニ於人欲之流ニ而不レ自テ濟一云、

二十九

○將欲取——トハ天下取ント云心ヲ作シ其取心ノ萌ツトメシイテ善ヲ作天下ヲ得

ト思フレ天下不可得也

○為之——トハ強テ善ヲ為作スル事也

○吾見其——トハ已ムコヲエズシテモ善ヲ作ス也ト云伎カ河上公注ニハ已ヲハ語

助用テノミト点セリ讀ム時伎其ノマ、通スル也為^レ善強^ヲテ為^ラ取^ニ天下^一者ハ吾其
天下不^レ得^ル見^ル也止ト訓^ノ止^ヲ不得云ニ付テ伎不^ニ分明^ニ而其伎無^ニアラ

ス善為^ヲノ分^ヲ以テ天下^ヲ取^ラント欲スルハ已ム^ヲ不得^ル也學者可隨其情云、

○天下神器神器ト云ハ日本ニテ神代ノ三種ノ神器ナト云^ヲアリ其類^カ河上公注

ニハ神器^ヲハ器^ハ物^也人^ハ乃^{天下}之神物也神物ハ好^ニ安靜^ヲ不^レ可以^ニ有^ニ為^ニ治

也云、器^ハ物^也物^ハ人^也天下^人ト云^ニ用^{タリ}此^{不可}用^カ今^此注^ニハ天下^ヲ得^ルコ

ヲ云也天下^ヲ得^レハ則^{神器}得^ヘキヤ天下^カ即^{神器}見^ルヘ^キカ天下^モ即^一器

也天下ノ神器トイヘハトテ周鼎宝玉^ヲハ不^レ可^レ云^{カイ}カン夫天下^ハ人^力ノ得

ヘ^キニアラス至德盛道ノ極^リテ自然^ト天下^販之^辞止^ヲ不^レ得^有

天下^心有^リテ求^テ得^ヘキ理ニアラスコロビ入ヤウニナクハ不得^コ也ト云ソ

(此の面、以下余白)

(25ウ)

(25オ)

○不可為ト云カ自然ニアラサレハ不得作ノ不可得也

○サテ次ニ為者——為スル者ハ必ス敗ル執ル者ハ必ス失ト云ハ心ロアリテスル故也^{ルハ}有^レ心皆敗レ失フ也

○^(ママ)化物——トハ此ハ上ノ句ノ譬ニ合スル也上ハ喻ヘ此ノ句ハ躰也有道之人物ニ於ル行クニマカセ行ニ心ヲツケス是皆自然ニノシカル也

○或嘘トハ嘘ハ吹也一曰出氣急曰吹緩曰嘘又作^(ママ)噓或作吁莊子

吹吹响响云云

○或羸倫為切弱也瘦也音与累通ス累ハ^(ママ)偏迫切^{ルイ}ノ音也

○或載トハ載ハ成也先後緩急強弱成衰ト可得意也

是以至人——トハ甚奢泰ノ三字ハ過當ノ名ト注セリ過分ナル也

餘食贅行ハ躰ノ過當也駢拇技ノ指也至人ハ去^ル之^ヲ至人ハ為無為

也甚奢泰ノ三字一意也ト注セリ泰ノ字ハ尔雅ニ西風ヲ曰^ニ泰風^ト一疏

云孫炎カ曰西風成^レ物物豊泰也ト云リ豊泰ナレハ奢ノ伐甚ノ伐アリ

アマリアルノ意也安泰ノ伐ニハアラス其外注可文無別伐也凡此ノ^(ママ)一掌ノ

太抵自然ニノ然ル伐無心無為無求ノ伐也云云

○以道佐人——何モ章段生起次才上ヲ受下ヲ起ス伐アリ初ヨリ此ノコトキ

也不及講サレモ此段上ニハ天下ヲ取ルニ心アリテ強テ作テハ不取自然(*)ニアラサ
レハ天下ヲ取人主ヲ輔佐スルハ兵ヲ以テ人主ヲ佐クルニアラス若兵ヲ以テ
人主ヲ佐クル者ハ其レハ以レ暴易フルニ暴伐也

○其叟好——トハ我レ人ヲ害スレハ彼又我害ス言逆テ出レハ又逆テ入ルノ伐還スラム好

ト云此伐ホト二道ヲ以佐ルカ能キ也還マヲナサヌホトニト云茂也

(26ウ)

○師之所処——トハ兵ハ凶器ト云ハ兵ヲ用ルハ不レ得レ已用ル也兵ハアシキ器具也兵

乱ノ地ハ農モ不得耕ウバラカラタチ生ノ荒地トナルソ乱ハ無レ辜及スト云テ

罪過モナキ万民モ子ヲ負テ境ヲ越テ逃散ルホトニ耕作スヘキヲナシ

荆棘生スル也兵乱後ハ天地ノ和氣ヲヤフル故ニ必ス其少シ作シタル

地モ百穀ミノラス凶年ノ災アル也

○故善者——是ヨリ上ノ七句ハ皆喻ヘ也此ノ善者果ナルト云茂ヲ云ヘキ

為也若シ人善ヲ為コ杲ナル者ノハ行ヲ杲タスト云茂也德行ヲ徳

行ノ如ク成就シスマシタルコ也此杲我カ身ニアリ此杲ヲ以テ人ニヲコリ人ニ

ホコリテ人ニ勝コヲ求ヘキ理ニアラス

○不敢以取強ト云ハ人ニ強キカラ持タリトテ臂ヲイカラカスヘカラス也

杲ナル者ハ必ス弱キ不杲ニ勝コヲ欲スル者ナル故ニ如此戒ムルソ注易言杲

(27才)

——トハ易象傳曰山下出ル泉アルハ蒙ナリ君子以テ杲レ行育レ徳ニ云

○矜伐驕ト云ハ皆同意也不及抄

○果而不得已トハ矜等ノ名無メ外ノ亓ニ若應スル亓アルハ不_レ及_ニ是非_一已_ラ
不_レ得應スルコ_ト在ル也此則上ノ知_レ雄守雌ノ一例ノ論也

○果而勿強トハ強者強ニメ始終強ナラス必其強ヲ不_レ能_レ終有_ラン

○物壯——天地萬物ヲ見ヨ四季轉反ヲ見ヨ物已ニ盛ナル時ハ老ヒ衰フコ_ト必至ル

春_ル生秋落ルカ如也此理ヲ不_レ知強ニタカフリテ強ヲ天下ニ用_シト思フ者皆不道人也

○是謂非道ト云是也此レ不道ナリト知_ラハ急キ止メ急キ去テ不_レ勿用_(*)

○早已トハ早ニ止已メナス亓勿_レト云此老漢衰世ノ兵乱ヲ誠テ善者ノ杲ニホコル
亓ヲ戒ムルナルヘシト云

三十一

(27ウ)

○夫佳兵——此亦上章ヲ受ル也金_(ママ)是設_ニ譬喻_一以テ言人ノ世ニ居ル人ニ勝_シト

思フ心有ル者ハ凶惡ニメ不吉也ト云コ_ト言也其ノ語意明白也

○佳兵_(トハ)好喜用_(テ)兵者ハ不祥_(ノ)人也兵器ハ不祥ノ人用ル故ニ器モ亦不祥ノ器
也此レ天下ノニクム処也

○物或惡之ト云ハ物トハ人物也天下惡レ之ト云吏ヲ物ト云ソ

○故有道——道ヲ得タル人ハ居ルヘカラス有道ノ人ハ心ヲ善惡ヲカス善ニホ

コラス善ニサヘ居ラヌホコラヌ何ソ天下ノニクムコヲ以テセンヤ

○是以君ヨリ下兵ノ説ヲ述ル也如文君子ハ常住無為ニ居ル時ハ左ノ方ヲ

上座トスル也軍兵ヲ用ル時ハ右ヲ上座トスル也右ヲ貴フ吏ハ兵ヲ用トハ人ヲ

殺処ノ伐也喪ノ礼ハ人ノ死タル時ノ礼伐也喪礼ノ如クナ故ニ陰ノ方貴^テ右^ヲ上座ス

○居上勢トハ下カ反テ上ニナルト云吏ソ

○恬淡トハ水ノ味ノ如也善不善ニ心ヲツケヌ処也兵ヲ用ルコヲ不美也若

君子ヨキ事トセハ是ヲ樂マン若シ樂ハ其レハ人ヲ殺コヲ条也注孟子曰

不嗜——トハ梁ノ惠王ノ章ニアリ曰孟子見^テ梁^マ衰^ニ王^ニ出語^テ人曰望^レ之^ヲ不

レ似^ニ人君^ニ就^モレ之而不見所畏焉卒然問曰天下惡乎定吾對曰定^ニ于

一孰能^レ一之對曰不嗜殺人者能^レ一之孰能^レ与^之對曰天下莫^レ不^レ与^也云云

人ヲ殺コヲ以テ樂トセハ何トノカ志ヲ天下ニ得ンヤ自余注ノ文無別弋在^レ文可見

三十二

○道常——トハ才一章ノ道可道——ト云弋ソ道ハ常ニ不^レ變不^レ易也此ノ

常ノ道ハ無^レ名也^ハ可^レ名常ノ道ニ非^ス無^レ名ノ常ノ道也

○樸ハ無名也即是道也此無名樸ハ至テ微少也

○樸雖小天下——トハ微少ノ樸ノ道ヲ天下尊^フレ之誰カ不尊敬乎尊敬スル

(28ウ)

理アリ誰^カ是^ヲ下サンヤ推下^キ無^ニ故^モ王侯臣トスルコアタハス也去程ニ臣トセスト云ソ

○王侯若——王侯モ臣トスルコ不能王侯若能此ノ微少ノ樸ヲ守ラハ天下万

物モ自^ラ皈服スヘキ也賓トハ尔雅服也疏云懷^テ德而服也

○天地相合——トハ王侯此ノ道ヲ守レハ天地^モ合^ノ天ヨリ井露^カヲフラスヘキ也天ハ至テ

高シ高キトイヘトモ下テ地ニ接^ソ天氣下地氣上テ和合而後^ニ甘露雨^ル下也

○人莫之令トハ人作^ヲ以テスルコ無^シ合^トハセシムルナリ心ヲ容レテ令ル時ハ平等

平均ナラス自然ト^ソ然カル故ニ平等ナリ平均ナリ民ハ天下ニ在ル自然ト生シ自

然養フ也令ムル時ハ何ント^ノカ然^{ヒト}ヒトシカラン是即自然ノ道

○始制有名トハ制ハ制作ノ^マ也道ノ始ハ無名也万物既形ヲ作^シ而後ニ

道ニモ名アリ樸散ノ有器也樸散セサレハ器ナシ器ナケレハ無名也

○名亦既有^ニ道名モ已^ニ出來スル也一生ニ々生^ニ三^ト注^ニ云ハ元始ノ一氣ヨリ陰陽之

(29オ)

二氣生ス二氣天地人ノ三才ヲ生^ノ万物尽キス無^ク窮出來也窮^メ尽^ス不^レ能^ハ

○夫亦將知止トハ名ニ随テ万物ヲ分別^ノ窮スヘキ事ハナラヌソ知止トハ道ヨリ生スル

其道ニ至テ止也道ト云止ル処ヲシラスンハ争^カ窮リアルヘキソ

○知止所以不殆トハ名ニ随テ道ニ至テ止ルト云コヲ不^レ知危事ノ申^テ生スル^ハ処也
道ニ至テ止ト云事ヲ知レハ安泰ニシテ不危也

○譬道之——由川谷——トハ譬ト躅ト二句^ニノ可見天下ノ万物ハ必道ニ至テ止ル天

下之川流江河ノ水ハ大海^ニ至テ止ル也万物ノ道ニ至テ止ル^ハ諸水ノ入レ大海^ニ如キ也

三十三

○知人者智^朱——人ノ好悪ヲ知ルハ是レ智慧也河上公注ノ意ト同意也

○自知者明トハ我レ能ク我カ賢不肖ヲ知ルハ明也人ハ知レトモ吾ヲハ不^レ知

不明ナルヘシ然世ノ人能ク人ノ是非ヲ知リ人之善悪ヲ明ムルトモ我ヲ明ルコ

無キ也范堯夫云人^ニ至愚^ニ責人^ヲ則ハ明也^ニ至^ニ聰明^ニ恕^レ己^ニ則ハ昏苟

能以^ニ責^ル人^ノ心^ヲ責^レ己^ノ之^ヲ責^レ己^ノ以^レ心^ヲ恕^レ人^ノ則^レ不^レ患^ニ至^ニ聖賢^ノ矣

○勝人者——トハ己カ力ヲ外ニ觸ル、^ニ角^ノ字ヲフル、ト讀セ^ニ角^ノハ觸也

○自勝——トハ我カ心ヲ責メ我カ非ヲ責ムル^ニ也^ト己カ私^ニ勝^コト也注^ニ謂^ニ之^ニ克^ト

也トイヘリ^レ己^レ覆^レ礼^ト云同意也

○知足——知足不知足ト云コ尤可甘心^ニ也足ルコヲ知レハ一粒一滴飽^ハ則休^ニ

不知足者ハ五鼎八珍^モ猶不飽金玉財色都テ皆如^レ斯不敢弄^ニ禿毛^ト

知足ノ者ハ大富貴ナリ不知足者金ヲ^ノ此斗ニサソフ^ハ不足大貧者也

知レ足無レ不レ足皆満足也故常有レ餘也

○強行——トハ志タユマス志氣不怠者不弱也其安所得久ノ不変易一処不失長久也

○死而不亡者壽ト云ハ此ノ一句ハ注自證自悟可也トイヘリ以ニ文字言句ニ不説尽

処也參得ノ重ト見タリ河上公注ハ不書徃見如文伎味輕薄ナリサテ注ニ論吾

里仁ノ篇ノ孔子曰朝聞道夕死可矣ト云句ヲ引テ此ノ意ナリト云ソサテ朝聞

道夕死芟ハ孔子ノ道ハ亘物當然理也此道ヲ不聞千歳イキタリト生無甲

斐亘也若此道ヲ聞得テ悟入セハ朝ニ悟テ夕ニ死ト無貴恨也朝夕ハ時刻ノ尤近キ

亘ヲ云也不聞不悟万歳モ何カセンソ悟入セハ必スタニ死セヨニハアラス悟入ノ長久ニ

行ヘハ鬼ニ金棒也サテ夕ニ死ヲ樂ム心ハ何亘ソナレハ生テハ順ニ死ノ安シ先ツ生ハ

安ト云ハ能此道ヲ聞キ得テ悟入スレハ身ヲ一毫髮ホトモ不順不理地ニ

ヲカス此生空ノ不生道不聞此レ百千才生テモ空ク生ル也禽獸ノ長生ニノモ

何益カ有ンヤ死安ト云ハ死モ空ク不死張子カ西ノ銘ニ存レハ吾順ニ事フ没スレハ

吾寧シト云リ順レ理ニ死スル故ニ死モ亦安寧也若不順レ理死セハ豈遺恨乎

朱子曰若是知得真實一必能信之篤守之固幸而未死則可下以充

其所レ知為聖為賢万一即死セハ亦不昏昧過了一生一如禽獸

然上是以為人必以聞道為貴也云此ハ朝聞夕死ノ芟也愚案先ツ如レ文

(30才)

(30ウ)

見之參^{セハ}之^{テモル}死而^レ不^レ滅者ハ道也若シ人千歳之命ヲ保ツト云トモ道^{ラシハ}不^レ知

禽獸ヲ如何^シ道ニ安住^ス其理ニ悟入セハ一日モ千歳也縱令朝聞夕死ト云

共何ノ遺恨有ランヤ夭死ストモ道^{シハ}不^レ亡長壽ノ人ナリ又ノ伐道ヲ悟入^ス夭死スル

共壽キニ似タリ命ヲ長セント云モ道ヲ知りタク思故也道サヘ聞カバ死テモ

長壽ノ人也若又不^レ亡悟入セサル者ハ壽任何カセント云^テ茂カ禽獸ノ命長

鶴之千年龜ノ萬年何ノウラヤム処カアラン

○亡小補勻會亡ハ逃也失也又樂^テ酒無^レ厭謂^ニ之^亡

三十四

○大道汎^シ——右トハカケツク所ナシ故ニ汎ト云ソ

○万物——トハ天地ノ間物々皆此大道ヨリ生スル処也何辞センヤ

○功成——トハ既生スレハ其功大道ニ在リトイヘ^レ任何以我カ功トセン故ニ功成不居云ソ

○衣被万物——トハ注ニ衣被ハ蒙^{ママ}類也ト云ソ万物皆其ノ利ヲ蒙ルソ其ノ利ヲ

蒙レトモ我レ其主宰スル心ナキ也

○故常無欲——矣トハ湛然トノ欲スルコナシ淡々泊々タレハ自小キニスト云ヘシ

万物販焉——矣トハ万物此道ニ販^ス以テ道ヲ主トスレ^レ道アツテ主トス

ル^レ叟ヲ自ラ不^レ知也小ナリトイヘ^レ是大ト名ケテヨカルヘキ也能小ナレハ能大也

○是以至人——トハ至人ハ能大ヲ成サズルカナサノ大ヲ不レ成故ニ能大ヲ成也此即守ル雌
伐也天下ノ谷タレハ天下ノ水販スルノ芟一意也

三十五

○執大象——執ヲ河上公ハ守ル也ト注ス此注ニ取ノ芟也大象無象象也ト云程道ニヲ
大象ト云ソ

(31ウ)

○天下往トハ此道ヲ執以テ天下行フ道ヲ以テ行時ハ一天下ニ誰人害ス
ルコヲ得テント云ソ一天下カ害不レ得安穩泰平也安平泰ノ三字一意也

○樂与——樂ハ音樂餌ハ飲食スルコ也樂ハ甘アマキタノシム餌ハ舌ヲタノシム客
人ノ來ル時音樂奏ソウ珍饈ヲ設ケテ客ヲ請待スルニ音樂モ止ミ

饈モ過レハ客モ過去ル也世味世音ハ止時有ル也

○道之出——トハ此大象ノ道ハ出レ言ヲ道ヲ說ニ音彖ノ面白カ如ニモア

ラス珍饈甘美ニモアラス淡々トノ水ノ始(ママ)ニ何ノ味ヲナレレ不レ尽樂モ

餌モ尽レトモ道味ト道音トハ不レ尽ト云也

○視之——聽之——

○用之——トハ目ヲ以見レトモ不レ見耳ヲ以聞トモ不可聞耳目見

聞ニヲサムヘキヤウナレレケレ此ヲ以テ古ヨリ今ニ用レレ不窮尽也万物ハ

(32オ)

尽レ有窮レ有道ハ尺ル支ナク窮支ナキ也

○道之出レ言トハ道ヲ言ニ説キ顯スト云コト也注ニノ可見耳

三十六

○將欲喻——喻ノ字勻會ニハ口ヘンナシ翕迄及切合也歛也動也聚也

通作歛(ママ)老子將欲歛已上勻會河上公注本ニモ口徧ハナシ今ノ本口徧ハ誤リカ

○初ヨリ與之ト云迄ノ八句ハ皆譬喻也此ノ一章ノ大抵ハ譬喻ヲ以理説也

○將欲——張之張レハ必弛也強ケレハ弱興シレハ廢与奪レハ奪也サルホトニ弛ントスル

時ニ先張也弱ントスレハ強スル也廢テントスレハ興ス也奪ンヤトテハ與フル也

則是便ヲ以テ得テ便ヲ以テ失フ也此ノ理ニ必然ノ理也ト云ヘトモ

世人不知也此理ハ不分明シテ分明ニ在ル理也

○是謂微明トハ分明ナラサル処ヲ微ト云ソ微ハ猶レ晦也ト注スルソ微晦

ナレハ不分明サレトモ實ニ分明ニ此ノ理アルコト明白也故ニ曰ト明也

○柔之勝——トハ此ハ守レ雌守レ黑ヲ也柔ノ勝レ剛ト云ハ水能柔弱

也船能剛強也水ハ不損船ハ能損也是ヲ以可知也

○魚不可——トハ洎ハ道ニ喻也魚ハ喻レ人魚水ヲ離居ルヘカラス

人道ヲ離テ居ヘカラス

○國之利——トハ利器トハ重宝也國宝ヲ以他人見スレハ人は是ヲ

ホシカリテ必盜賊ノ難アリ人ニ見スルハ則盜ヲ招キ寄ル^ス芟ニ成ルソ

如^レ其道用タル^{コト}我ニ在リ若道ヲ外ニ顯ノ物ニ勝ントテ臂ヲイカラ

カシテ外ニ顯ハセハ道ノ用則失也國ノ宝ヲ人ニ見セテ盜人ヲ得ルト

同事也ト云ソ前章アル善者杲而已不可以取^レ強之意ト同

ト云ソ在^レ注明白也聊為^ニ幻章^(ママ)抄ス云云

三十七

○道常無為——此章ハ前二十二章道常無名ト同芟也道常^ハ

自然^ニ然ル也力ヲ入レ用ル^ル芟ナシ無為^ノナシ自然^ノ然ル^ル処也上王^(*)候^(ママ)

此無^レ為道ヲ守ラハ万物不^レ用^レ化^{スル}コト^ト自然化^{セント}也此化^ノ字教化^ハ徳化也

下ノ化ノ字ハ萬物變化ノ欲作時也天地間萬化^ノ出生スル時ト云芟也

但無名^ノ樸道ヲ以テ鎮也無名^ノ樸ヲ以テ鎮^レハ万物^ノ變ヲ自然^ノ教

化スル也萬物變化スル^{コト}相ツイテ不^レ止^レ而我但自然ヲ以^テ処スルハ彼ノ

万物變化作^ル紛々トマギラハシキハ彼則紛々タリ我ハ安穩安平ナルソ故ニ曰^レ鎮也

○無名——ハ無名^ノ樸ヲ云^フハ何^レ芟ソ是又勿^レ欲ト也無欲^ニ清淨ナレハ靜^{ムル}

天下^ニ自正シカラン無欲ヲ以天下ヲ靜謐ニスヘキト也

(33才)

○亦將不欲ト云不^ハ字句如ク見ルヘキト注ニ云ハ用^レ切処也ト云ソ欲^ハスル^マ不^カレト切ヲ用テツトムルカタ也

(33ウ)

才^ハ

上徳不——上徳ノ人ワ有^レ徳其徳其身化我其徳タルコヲ不知

但能与^レ徳^ハ化スル故ニ是則能有^レ徳故以是有^レ徳云ゾ

○下徳不失——下徳^ハ者ハ其徳知不失徳徳ヲ徳トメ未化執得テ

アリ徳ニ執スレバ徳ニアラス譬ヘハ酔ヘル人ノ我ハ酔タルト知ルハ酔タル人ニワ

アラス酔タルト不^レ知實酔人也徳ヲ徳ト知ラサルカ徳也徳ヲ徳ト知レバ

徳ニアラス故是ヲ以テ無^レ徳云ゾ

○上徳無為——トハ無^レ為無不為トハ心ヲナス不入心ヲスルニイレサレバ無

レ不^レ為若人一毫髮ヲイレバ平均ニスルコ成シカタシ不^レ為ルハ而モ為無

レ不^レ到無以為ト云ワセスト云コナシ悉ツフサニスルソト云コソ

○下徳爲之——トハ有^レ以為スル^マ不^カレハ心入テスル也心ヲ入テスルワ有^レ爲スル

故ニ上ノウラ也不到不極是則セサル也以テト云ハ注ニ有^レ心也ト云以テスル

無心アリテスル^マ不^カレハ心入テスルコアル也ト可心得也

△上仁ヨリ下仁ト義ト礼トノ三ヲ上中下ト次第ノ可見仁ヲ上ニ^マ次云ヨリ之儀ヲ

中トメ次之禮ト礼ヲ下トスル也カミヲ上徳下徳ニ例メ云タソ上人ワ為^レ之

(34オ)

以有爲セサルコアルヤ是儀ヲ以テ下徳

△上禮爲之——トハ老子ノ心ハ先ツ仁ト儀トヲ仁ヲ上徳ニ比シ儀ヲ下徳ニ

比ノ此二ツヲ抑揚ノ二ツヲ挙揚テサテ礼ヲハイヨク前ノ二ツノ仁ト儀

ニ合スルバ下レリト云ゾ

△而莫之應トハ老子礼ハ爲^メ世^ニツトメ強テ民ヲヲシカ、メテサスル也民ミ

是ヲ從フコナシ去程ニ莫^レ之應云ゾ力ノヨワキ者ヲ力ノツヨキ者カ引立テ

コシヌケヲ歩スルヤウニスル也

△攘^レ臂而仍之ト云也民ノ不^レ縦者ムリヤク^(マ)ニシイテ引^キヒク心ナリ

△故失道——トハ道ハ自然也自然ノ理ヲ我カ得テ得トスル也自然ト云ハ

心ヲ不入処也故能化^ク得^ルト云ハハヤ心ニ落ル程ニ不化也去程ニ得ルカ徳ナレバハ

ヤ道ノ自然ノ無心ヲ失也去程ニ失^レ道カラ第二番ニ落ル時カ徳アリ仁ハ

徳ノ後也失^テ徳仁カアルソ仁ヲ以テ徳ニ比スレバ仁ハ徳ヨリ又下タナル者也仁ヨリ

義ハ又下ナル者也失^テ仁後ニ^テ義カアルゾ儀ハ制断ノ心アルゾ^テ義トイヘハ是ヲ

仁ニ比スレバ儀ハ又仁ヨリ下ナル者也礼ハ民ヲ強テ行ナハシムル処ナレハ^テ義ニ比スレバ

イヨク又下ナル者也

○夫礼——ハ礼ハ外ヲカサル者ナレバ内ニヨラヌ物ナレバ忠信ノ薄ト云ソ中心ヲ

(34ウ)

忠ト云眞實無妄ヲ信トイヘハ忠信モ内ニアル者也礼ハ忠信ヨリ

弥薄ナル者ナレバ以^テ礼人ノ心ノ僞ヨリ出ル処也僞ニ出ル如ナレバ乱ノ首
メト云ソ

○前識——トハ多智ニ前ノコヲ知徃^ト知是皆道ヨリノ見レハ

悉ク花ニノ實ニアラス華ト云ハ外ヲツトメ外ヲカサルコト也實ト云ワ内ヲ
制シ内ニ有物ヲ云ソ

○而愚——トハ此外ヲ務ムル物ヲ以テ智惠トスル是則反^テ愚智ナリ

故ニ愚ノ始メト云ソ愚痴是ヨリ起故ニ始ト云也

○是以^(ママ)天——大丈夫ト云ハ夫ノ字ハ大ノ字ト一ノ字ヲ合テ夫ノ字トスルソ周ノ

尺ハ八寸也八寸ツ、十ヲ丈トスルソ人ノ長八尺アルヲ丈夫ト云ソ詩ノ甫田ノ注疏

ニ夫ハ有傅相ノ徳而可^レ倚仗謂之丈夫トアル礼記ニ天子有后有^ニ夫人

注疏夫ハ夫也言扶持於王者之丈夫ト云ワ人ノヨリヨル処ノ人也又衆人ヲ

タスクル人也其厚ト云又實ト云ハ内ヲ務ル意也人中ニハ上ノ能キ人ハ内ヲ

務テ外ニハ不務ト云^マ茂ソ

○去此^(ママ)——トハ彼トハ礼也此トハ道也注ニ老子ノ言仁義礼——トハ老子ノ

仁義ヲ説クコトハ孔孟トハ不同也一樣ノ看ヲ成スコトナカレ魯齊許氏^(*)

曰老子以二道德仁義一皆失ス然後至_テ於礼礼ハ爲_ニ忠信_ノ薄_ラ而乱之_(*)

首_ニ又以_レ智治_ラ国々ノ賊_(ママ)不以_レ智治_レ国々ノ福ト云孟子曰

智之實知_ニ斯_ニ一者弗去是也○孟子開_レ口便説仁義盖不可須臾

离也道指鳩荒之也_(ママ)又謂上德不德皆所_レ見異不必槩_ニ云

才_(*)○昔之得一——貞トハ一者ハ道也天ノ明_ニノ日月星辰ノ象ヲ顯ス_コモ道ノ一也

地ノ安_ヲ万物ヲ載_ル神ハ灵妙ナル者也此神ハ山神水乱ナト灵驗ノ有_(ママ)礼ノ亶ナ

ルヘシ山灵ナト、云モ山神ノ_コ也谷モ盈_コ万物モ生_{ズル}王者諸_(ママ)侯モ天

下国家ヲ保_コ皆此ノ道ヲ得_ル也貞ハ正也天下ノ貞_(*)正_ヲ得_ル也

○其致——トハ清ク寧ク灵ニ盈_テ生シ正_キ皆道ノ一ニ依_テ得_ルト之_ニ云ソ

○天無以——ト云ヨリ厥_(ママ)足ト云マテ上ノ文ヲ細釈スル儀也夫_レ天若_シ清_キ

亶無_ンバ裂ヘキ也裂ハ徐曰裁剪之餘也破也此注_ニ裂猶周易_ニ言

毀也易係辞曰乾坤毀_ハ則無_ニ以_レ見_レ易_ヲ易不可見則乾坤_{アラン}或_レ幾_{チカキ}乎

息_ニ矣天モ破裂ノ破ルヘキ也道ノ一ニ因_テ清シ天若道ノ一ニ因_テ清

ウ無_ンバ破滅スヘキト云ソ地以安寧ナル_コアルヘキカラス發動ノ不定

ヘシ此ノ一ヲ以安寧也

○神_(ママ)灵無_ノ歇ト云ワ消滅_ノ灵ナカルヘキ也谷_(*)ト云ハ尽ハテ盈_ル処_モナクナ

ルヘキ也虚ナル故ニ盈ル也虚ナケレハ不盈也尽ハテ、不可受ナリ万物生スルコトモナケレバ滅スヘキ也

○故ニ貴ハ以賤——トハ斯ヨリ下譬喻也貴ハ賤カ本基トナル物ソ如レ其前章并ニ段目ニ弊則ハ新少則得多則ハ惑ト云フコトアリ其レト

儀同靈^(ママ)ニノ不自有盈ル也少キ故ニ得ル也多クハ何ヲカ得盈レハ何ノ

滿ラン靈ナル故ニ盈ル也貴ハ何ソ貴カラン賤ナカノホリテ貴ト成無^{クンバ}

レ賤何ソ以テ貴ト云支アランヒキ、カ無ンバ何ソ高キコトアラン去程ニ下ヲ

以テ上ノ基本トスルゾ

○是以候^(ママ)——ト云ワ例ヲ引ク王者ノ自身ヲ指シ孤ト云寡人ト云不穀

ト云モ皆是項上ナレト卑下スル時ノ詞也身高上意ノ至極ナレト高

上ノ極トセスノ孤ト云寡ト云ワ靈^(ママ)ニノ自有セサル意也ト喻テ言ソ孤ト寡

トハ儀同不穀トハ穀ハ善明也礼記自称ノ曰不穀^ト注ニ謙称^{「ラ」}善非乎ト云ハ

去程ニ皆以レ賤為本支ハ分明也礼記自称ノ曰支我云^ト如此也去^{ヒ*}又

如レステハナキカ是ニテアルハトツノリタル意ニテ非乎也ト云ソ莊子駢拇篇ニ

是故明ニ駢者乱五色淫文章青黼黻之煌々^ニ非而離朱是トス已

○乱五声非乎枝於仁者○非乎而曾史是トス已^云云莊子ノ文法ト今ノ文トカ

一樣成ト注ノ指南ニ云ソ

○致數車——トハ一本ニ譽ノ字ノ誤如レ注可見致ハ至也トイヘハ至極スレハト云

ヲ以テ可見車ハ總名也其極名ノアル車ヲ一ツヲトキホトイテ軸トトリノケク

サヒハ輻ト取ノテ輪モ三十ノクサヒ也一々ニコロ／＼ニスレバ本ノ木ノキレトナリ

車ト云總名■ヲナル也輪輻軸衡輻集レハ一車也車ト云名アリトケノ

クレハ本ノ木ニ成テ車ノ摠名ハ虛名也引ヨセテ結ンハ柴ノ菴テテホトケハ

本ノ野原也梟ト云歌アリ物一定スレハ有ニ落ル也有レ任無キハ道ノ儀ニ近

靈ナレハ能化ス一定ノ易ラサレハ不化ミ道ニ遠シ

○不欲碌——此ハ一定ノ不化也碌々トハ韻書ニ玉ノ白ト注セリ河上公ニワ

碌々ワ喻少落々喻レ多玉ハ少キ故ニ見レ貴石ハ多キ故ニ見賊ト注セリ此注ノ

玦トハ不可也落々ハ勻會不相入ト注セリ耿弇ガ傳落々難レ合任アリ各別ニソ

分々コロ／＼ニノアル白ト見今ノ此注ノ意ハ車ハトケハ車ト云名無クナリテ

爲レ靈名玉也石ハ碌々落々トノ終其ノ名其躰不レ可レ易車ハ有テ無玦

也石ハ一定シテ有テ在ト云玦ニ偷タリト可レ見也莊子除レ日無レ歲トハ莊子

則陽篇有之容成氏曰除レ日無レ内無レ外注合三百六十日ニ而後爲一歲

遂日而除去ノ則但可謂之日不可謂之謂之歲故日ニ而生此一句目好老

子曰數車無車亦此意外之名因_レ内而生無_レ内則無_レ外_{美云}

性理大全或問如何是天得以一清樂庵李氏曰夫物不一而各在其一如

日月之照睇星辰之輝粲風雷之鼓舞雨露_{シシ}滲漉_{シシ}各有其一而_{モルコス}

不相乱天惟得不一_一是以清淨無爲_ニ化推_レ此言之地得_レ一以寧神

得_レ一以灵谷得_レ一以盈万物得_レ一以生候王得_レ一以爲_レ天下_一亦只是這

箇道理且如人君治_ル天下_一亦何容心哉公卿大夫各因其等例士農

公商各就其識分如此則尊卑貴賤不相混淆_{コンカウ}好惡_ヲ取舍不相貿_{キウ}

乱天下自然_ニ治_ル云

○滲露ハ雨露ノ降り下ル也

○混淆ハ混同ノ一ツニナル_一也

才_三○久_一者道_一——反者トハ道力運動ノ静ニ皈スル_一也反ハ復也静ト也ト注_ス

ナルワ動_ノ生スル処動_一極_レハ静_ニ成静ナル_一極_レハ動也注_ニ易ヲ引易

ノ説卦曰艮ハ東北之卦也万物ノ成終スル処_ニ所_レ成始_ル也故曰成言_{スニ}乎

艮_ニ云_一北ハ陰ノ極万物ノ終ル処也東ハ陽ノ始_リ万物ノ出生スル也艮ハ東北

ノ角ノ卦也終ト始トヲ兼タリ終_レハ初初_レハ終_ル由_ル此觀_レ之_一反ト云ハ動極_テ

静ナル所也

(37才)

○弱者道——トハ能弱クソ後能強ナリ 若強ヲ專ニスレハ強却テ弱シ強ナレハ

折ル理アリ去程ニ動ケハ静ナルヲ用ン強ハ弱ヲ用トスヘキ也

(37ウ)

○天下物——トハ天地ノ間ノ万物ト云フ也生於有トハ天地先ツ出キテ後ニ万物アリ
万物（万・物）アリ万物ワ天地ノ有ニ生シタル也

○有生於無トハ其天地ノ有ハ何ニ物カ作り出シタルソト云ヘハ天地ノ初ハ大虚ヨ
リ出生シタソ去程ニ有ハ無ヨリ生スルト云ソ

此ノ動靜強弱ノ四ニ因テ有無ノ初ヲ云ソ老子ハ大抵靈弱卑（ママ）主トスル

故ニ天地ノ間ノ有無動靜ノ理ニ因テ如此并出ス也天地ノ沙汰ヲシタトワ
不レ可レ心得也注ニモ委クアリ

才四（*）○上士聞——此ワ道ヲ聞ニ付テ上中下ヲ分タリ孔子道モ上中下（ママ）ノ分タリ

中人以上ニハ可ニ以語上中人以下ニハ不レ可ニ以語（ママ）上上（ママ）又上智ト下愚ト不移
トモ云ソ今此ニモ聞道ヲ付テ上士聞道（ママ）動——トハ上分ノ者ハ其言ヲ

聞必信スル故ニ動（ママ）メテ修行スルソ中士——トハ若レ存若レ亡トハ或ハ信ノ有リ
トシ或ハ疑テ無トスル程ニ存スルカ如シ信有也亡スルカ如シハ疑無也

○下士——トハ最下劣人有任無任不レ弁ハ但大ニ笑也下劣ノ者ノ笑ヲ以テ
此ノ老漢ノ本意トスル也去程○不笑不足——トハ云也注ニ以レ笑ヲ

(38才)

吾道ノ高上ナルヲ見トハ云ソ倒ヲ引時韓退之ワ唐朝ノ文人也

於レ文韓文ニ過タルハ希也然ニ退之ワ論文ヲ云ソ人カ吾文ヲ笑ヘハサテワデギ

文也トテ嘉フヲ手跡筆道ナトニモ如レ此——有張即之カ筆跡ワ初メ

ワホメタリホメタル時即之カ云ヤウサテ我手跡未不^(*)到也重テ條^(ママ)ス後人大笑

其時ニ即之カ修行ヲ止タリト云フヲ或人話未考傳如此文筆ノ上

ニサヘ也況ヤ此老ノ至道ヲヤ

○建言——トハ立言也建ワ立也ト云ソ此ヤウニ云ゾト云フヲ有レ之ト云也

其言ハナニノゾトイエハサテ次下ニ云ヤウ

○明道——トハ此以下ノ辞ハ吾今初テ云ニハアラス自レ古有レ之ゾト云茂^レ

○明道——トハ昧ケレバ明也明ニホコラハ夫レハ暗昧ナルヘシ前章ノ自見者

ワ不明ト云一意也

○夷道——トハ夷ハ注^(*)ニ平也大道也ト云ソ夷ノ字ヲ大ノ字ノ茂^レア

リ大弓ヲ夷トスト勻會ニアリ平ノ字ノ注ヨリハ大道ト云茂ナラハ

大弓ノ茂可然也愚案也不^レ可^レ抛云大道ワ無分別地也混一混

同スル茂也類ハ同キ也ト注ス物ト同類和光スル也

○進道——トハ能退ケバ則是進ム茂アル也尺蠖虫ノ屈ハ伸^(*)カ爲也

如レ文可レ見

○上徳——能空虚ナレバ能充盈スヘキ也

○大白——トハ明々白白々(*)自白白々トセス莊子ニモ引ケハ大白(ママ)苦辱盛徳ハ若

不足

○廣徳——盛徳ノ人ワ自足レリトセス自足レリトスルハ不廣狭少也

○建徳——徳ヲ建立スル人ワ建立セヌカ建立也偷竊也

○質眞——トハ質眞トハ眞實ノ質也眞質ワ純一無雜ニノ無変

無変ニノモ変アルヤウニスル也偷(ママ)ハ音偷(ママ)變汗也變也是皆足テ不レ足

如クスル意也

○大古(ママ)——太虚也虚穴(ママ)ノ内ニモ尤東西南北ハアルヘケレレ孰レカ其方角

ヲ定メ見ヘキ也去程ニ太虚ニハ方偶無シト云ヘキ也

○大器——トワ周ノ九鼎ナトノヤウナル或ワ九劦ノ鉄ヲ集テ

鑄ツメノ(*)■ソ九万人ノ引ナト、云ヤウナル鼎ナトヲ作ランハ一朝一夕ニハ

速ニナシカタカルヘシ

○大音——天地ノ間テ云ハ、大風大霆ナトモ切々ニ旦暮ハナキ者ナリ

程ニ希ハ少也マレ／＼ニ在ルレ芟ト云芟也

○大象——トハ天地ヲ云也天地形ヲ東ヨリ西^(*)テ成任無レ殘処ヲ

見尽スキ^(*)更ヲ得カタシ注ニ易ニ白——トハ易繫辭曰是故ニ法象

莫^レ大^ニ乎天地^{ヨリ}變通ハ莫大乎四時縣象^(ママ)着明ルハ莫^レ大^ニ乎日月^{ヨリ}云

○道陰——トハ幽微幽玄ニノ名ヲ付ヘキヤウナシ故ニ無名ト云也以前

ノ数句或實或喻其意皆能虚ニノ能無ナル処ヲ專トスル^レ也

○夫惟道——有道ノ士ハ能ク人ニ与テ自吾ノ有トセス推テ皆及^レ人

也道ハ能^(ママ)ト云ワ有道ノ人ワ能ト見タル也貸ハ注ニ与ル也トスルゾ

○成トハ道大成就ノ己カ自身ヲ成シ又人ヲモ成ス是ヲ大成ト云ソ

注ニ五章ト云ハ終ノ八十一章目ノ^(ママ)フ也往見云云

^(*)才五○道生一——一ハ太極也二ハ天地三ハ三才也ト注ス道ハ自然理無物也此

無物ヨリ太極ノ一氣始テ生ス一氣陰陽ノ二氣ヲ生二氣天地人ノ

三才ヲ生ス易係辭ニ易之爲^レ書廣大ニノ悉備ル有天道焉有人道

焉有地道焉兼^ニ三才^ヲ而兩^レ之故^ニ六者非化^(ママ)三才ノ道也ト云モ此理

二同^レ之欵又一生二々生四象四象生八卦ト云タ処モアルソ性理大全二便

生二二便生四老子却說二生^レニ^ラ便是不理會得多^(ママ)藏必原亡老

子也是說得好云云

○三生万物——三既ニ成テ其後万物生レ出ス其万物ワ皆陰陽ノ

氣也其陰ヲ負ヒ陽ヲ抱テ冲虚ノ理ヲ以テ爲レ和也此理虚ノ氣

ナケレハ万物生スルコトモ有マシキ也万物ノ生スルコトモ自然冲虚ノ理ナリ
ト云コト可知

○人之所惡——トワ注ニ是モ喻ヲ云タトシタソ孤寡ハ尤人ノイヤカル者ノ

然^(ママ)ニ三公以^(ママ)レ是吾目称トスルワ有ヲ有トセザル^(ママ)也有道ノ士ハ自

高ケレ任卑シトシ自貴ケレ任賤トスル意也天地人モ冲虚ノ氣

ヲ以テ其間ニ行テ万物生々トメ不息皆自無出テ有也生々

スルワ冲虚ノ和氣也学道得道人ワ此意ヲ体達ノ能無ニ

能虚ナルヲヨシトスル処也

○故物損之——トハアラノ天下ノ高物ヲ觀スルニ損セントスレハ却^テ益^シ

マサントスレバ却^テ損スルヲ損ト益トハ一定ナキヲ注ニ如^レ云月盈レハ

必^(ママ)缺^(ママ)リ是益ノ損スル道也又缺レハ必盈是則損ノ益ス利也去程ニ

損益ハ一定常無理也

○人之所教——トハ人トハ今ノ世上ノ人ト云意ヲ今^(*)時ノ人カ世ヲ教ルニ彼

教ユル人ノ云ヤウハ我教ユルモ道理カ有ルト云ソ其^レヲ亦我儀トメ教^レ之ニ

云リ去任其教ヲ理ハ偏ニ益スルコトヲ求ムルコトヲ知リ勝コトヲ求ムルコトヲ知也

勝マケ益ノ損ズルヲ理ヲバ不知コトヲキヲ求ムルコトヲ知盈ヲ求ムルコトヲ

知テ剛ナル者ハ折テ盈テルモノハ缺テ久シカラサルコトヲシラサル也

○強梁——トハ強梁トハ至テツヨキ者ヲ云フ晋太康記云梁ハ者

言金剛ノ氣強梁因テ名之云々金剛トワ金中尤強キ者也

二字任ニツヨキヲ用

(40ウ)

○不得其死ト云フ天命ヲ以テ不死不レ終◇(年)而死スルト云々也或ハ

人ニコロサレ或ハ天罰セラレ王法ニコロサレテ中央ノ天命ヲ以テ死セサル

故ニ云ソ論語ニ若由也不得其死然子路剛強有不得其死之理

故因以戒之其後子路卒死於衛死之難

○吾將以爲——トハ老子ノ意ニハ老子ノ若我以道教人ニ世上ノ人ノ

上ニ在ラン吾ハ是世ノ師ナラン吾ヲ以テ道ノ師トスヘキ也ト云ソ父トワ

師ト云々也詩ニ縱ニ師ニ尚ニ父ニ注ニ可レ尚レ可レ父云ソ如斯可知也

才六○天下之——トハ至テ堅物ワ折ク至テ柔ナル者ワ永ク存在スルヲ

馳騁トハ至テ柔カナル者カ堅テ者ノ間ニ往行スルヲ注云如水ノ

柔石カ堅ニ勝ツ水能石ヲ穿鑿ル以是可知

○無有ト云ワ不可見有躰色也無形色ノアル者也

○無間トハスキマナキト云フ也無縫號ト注ニ云ワ號ハ音家裂也

壺ナトヲヨクヤケハヒ、リノサクル也又孔號トヲ穴ナトノアク心ナル程ニ

無間トハヌイメニ穴ナトノナキヲ云ソ無形物ハ無罅處へ入テト

ホル也天下ノ柔天下堅ニハセスルト云フ是ヲ以可也倒セハ人ノ氣脉

營衛ノ間ヲ通ン營衛ノ間スキマナシ無間處ヲ無形氣

脉ハ能トル也以レ之可知難經ニ榮ハ行脉中衛ハ行脉外營周ノ不息

五十ニノ復大會陰陽相貫ス如レ環ノ無レ端云云

○是以知——上ノ二句喻也此ノ句ハ實躰也去程ニ知ル無

爲ナラスト云フ也無爲ハ能益アルゾ此則至理也モノイ

ワズノヨク教無爲ヲ我身ニ自行テ自然自尔トノ成ル道ノ

妙用也

○天下希——トハ天下人ノ知ルヲワカルヲ其智惠モ此処ニハ不及

才七○名与身——名ハ實ノ實ト云テ名ハ外ナル者也我身ノ爲ニ計

成物也更ニ身ニ益ナキヲ也然ルヲ世ノ人皆外物ノ名ニカ、ワテ名ヲ

取タカル是則名聞テカ、ワル故ニ先身ト名トノ二ツヲ拳勝劣ト云

(41才)

○身(ママ)ト与——トハサテ又我身ト吾財宝トヲ校量ノ財ト身トハイ

ツレソト云ソ貨ハ財宝也是(則*)ハ外物也名聞ト利美トノ二ヲ拳テ云ソ

(41ウ)

○得与亡——ト云ワ名モ我ニ益ナシ財(ママ)ヲ我身ニ益ナシ然ニ財ヲ得

ト財ヲ失トハ何レカ憂患ナルソト得失ノ二ツ拳テ云タソ名財ノ二ツハ得

モ失モ曾ヲ以テ憂ヘキ芟ニアラス皆外物ニ身ニ取テハ憂ヒ病ヘキ

物ニアラス然ニ道ヲ不知者ワ常以自病患トスル是甚ノ愚拙也云ツト

○是故——愛スルコノ甚シキハ着ノ深キ故也貪心深甚シケレハ我身心ヲ

費シ失フ也心力ヲ尽ノ名ヲ求ムル其愛着深ケレハ身心ヲ費モ亦

イヨク大也

○多蔵——トハ多貪ニ財宝ヲ多ク土蔵ナトニ積置ク是則多貪

ニ多ヲサメテ置テ一旦ニ失フ也多ク積持故ニ多失也厚ト云モ多キ

也若人一物ヲ不レ持ハ争テカ失コアラシ樂天カ詩ニ匹スル如身ノ後有

何カ支ア應シ向世間ニ無レ所レ求云手云ニ一物モ不物手打フリタル者(ママ)ヲ匹

如身ト——ヲハスルスミト和訓スル也應向世間トハアシフミタテヌヨノナカ

トヨム也此レワツエツクホトノ地モ持ヌ人ノコ也如レ此人ワ何ヲカ失何ヲカ

憂レヌ蔵ムルコ少ケレハ亦失モ少シ此甚愛——多蔵——ト云二句ヲ

(42オ)

以テ下ノ知足等ノ三句ヲ發明スル也

○知是^(ママ)——知足ノ者ハ恥辱ナシ

○知止——道ニ止ルコトヲ知レハ危殆ナラス如此ナレハ能安泰モ久也

此三句万歳ノ龜鑑也萬古愛用ス^(ママ)不^(ママ)尽イヘリ有注可見煩

不抄

才八^(*)○大成——物成ルコトアレハ必^ル缺^ルコトアリ去程ニ大キニ成レル者ハ常ニカケタ

ルヤウニ心持ヲスレバワレニツイテヤフル、コナキ者也故其用不^レ徹^ワ云ソ

○大盈——物盈ルコトアレハ溢ル大ニ盈ル者ハ虚キカ如クスレハ其用無

窮^ニ前章ニ達^レハ則盈^レ敵^レハ則新也同意ト注ニモ云ゾ

○大直——物大キニ直成時ハ若^レ屈^{ナルカ}スヘキ也直ヲ直トスレハ其用有^レ窮^{前ノ}

章ニ曲ナレバ則全也柱^(ママ)ナレバ則直也同意ト注ニモ云ゾ

○大巧——大巧ナル者ハ巧ヲ巧トセスイカニモ若^レ拙^スヘキ也ト云心ソ是則

其大巧ニ不^レ矜^心也

○大辨^(ママ)——大キニ辨舌アル人ハイカニモ物ヲ云コ若^レ訥^{ワツキカ}スヘキ也其辨^ニ

不矜意ヲ注ニ然モ不容言也ト云物不^レ云者ノ如シト云コ也大成

ト云ヨリ是迄デ六ツノ者皆一意也

○躁——靜——躁ハサワカシキコ也靜ハシヅカ也躁ハ陽也靜ハ陰也人

陰陽一偏ナル時ハ必病勝トハ一偏ナルコト陽窮レハ陰ト成故ニ寒

ト云陰窮レハ陰ト成故ニ熱ト云是則上ノ六ツノ物ニ譬ヘテ云也成

コ成ニ窮レハ破ル盈コ盈ニ窮レバ溢ル物皆一偏ナル時ハ病是ヲ以可レ知

○清靜——但道ノ清淨ハ有ニヲラス無ニヲラズ動ニ居ラス靜ニ居ハ有無

動靜ノ正貞ヲ得ル故ニ天下正ト云是ヲ以テ天下ノ式トナル故ニ正ト云也

才九○天下——世ニ有道時ハ世人貪欲不深故ニ難得寶貴ヒス去ル呈ニ走

馬ヲ引キノケテ糞ヲ以テ田ノコヘトスルト云コ也礼記ノ月令ニ糞ニ田疇ニ云コ

アリ是モ田ノコヘヲスルコト也今ノ此老子ノ意ハ有道ノ世ニハ無欲ニノ己カ

分ヲ得テ足ノ意也

○天下無——天下無道ナレバ欲心深ノ争戦フヲ專トス此争何更ゾ

トイエハ難宝得求メ人ノ国家ヲトラントノ貪欲深キ故也戎馬トハ戎ハ

兵也軍陣ノ時ノ馬ヲ戎馬ト云也生ニ於郊トハ郊外ト云テ野原ナトノ

意也争戦フ時五戎ヲ持テ馬乗野出テ戦コ也立戎トハ弓矢受矛戈戟

○罪莫——可欲トハ欲心深キコト也人罪過此可欲ヨリ起ル源ヲ尋レバ欲

心ヨリ大キ成罪ハナキ也

○禍莫——人君知^ハ是^マ何欲心カアラン禍其源ヲ尋レハ不知足ヨリ

起レハ欲心不盡何レノ時カ足ラン得ントノミ思ハ、金玉ヲ積テ山岳ノ

如ク也何ソアキタルコアラン故ニ禍ハ得ンコヲ思ヨリ大キナルハ無

○知足——知^レ足モノハ不^レ足以満足トス不足ヲヲ^マタトセハ何レノ時^カ足コ

アラン不足ヲ以テ足レリトセハ常ニ不足ハナシ前ノ章ニ云知足不辱

ノ意ト同

才^ハ十^ハ○不出戸——天下ノコ千々萬々限り無トイヘ何人ノ心物ノ道理悪ヲ惡トシ

善ヲ善トスルコハ一也門ヨリ一步セスノ以道察^レ之ベシ是則堂ヨリ下ラスノ

天下シルヘシ

○不窺——陰陽ノ變化萬物ノ凋零千古〔^ハ万^ハ〕常々カワルコナシ開窓

眼ヲ以テ不見何坐カラ天道ヲ見臥テ察スヘシ

△其出——若人間ヨリ出テ是ヲ見是求メント思テ我脚力ヲ盡ノ歩

行何難尽也出レハ弥遠ケレハト云ワト云ハ脚力ヲ尽ス也勞ス何勞ノ

功ナキ也何ソ眼ノ及何脚ノ至ル也遠ク何幾クカ見尽サン知尽サン見何少ク

カヲ用テ益ナシ故ニ遠ケレハ少ト云タトエヨカリテ下ノ句ノ意ヲ明ニスル也

△是以至人——聖人ノ道ワ不行ノ知不見ノ名ケ無爲ニ成ル是則

聖人徳化ノ用タルコ如レ此ト云也注ニ易曰不疾——是ハ繫辭ノ語

也曰故ニ能天下ノ務ナレハ唯レ神也故ニ不疾ノ速也不行ノ至ル

才十一△爲学——学道ヲ專トスル者ハ日々ニ我身ニ情欲ヲ益シコヲ求ムル

也又道ヲ為者ハ我身ニ情欲ヲ日々ニ損センコヲ求也絶学無憂前

ニモ云芟也注ニスルソ学ハ見聞覚知ニ在道ヲ見聞ニアラズ道ヲ聡明

名ヲ除キ肢体ノ我身ヲ身ノセサル芟カ注ニ墮^{ヤワリ}肢体ト云此芟ナルヘキ

カ去ルニ因テ損之又損ト云ソ注ニ智与故トヲ去ルト云ワ知ハ巧ミカサルコノ

起ル処也故ハ使^{セシムル}人也楚語ニ又其故アリ注ニ猶^レ意也故ハ意アリテ

スルコヲ云也淮南子原道訓ニ不^レ設^ニ智ト故トヲト云ソ注ニ智故

巧飾也ト云此伎ト同也道ヲ爲ワ日ニ損ト云コワ吾情欲ヲ損ノ智

巧ノ飾ヲトリノフル也又損——ト云コワ次第漸——ニステミ去ルコ也注ニ隳^(*)

——ハ隳^(*)ハ即隳^(*)ノ字俗作隳^(*)毀也壞也

△爲学——益トハ情欲ヲ益也政教礼条等ノ学問ハ日日ニ情欲ノカサ

リヲマシ多クスル芟也

△以至於——トハ道ヲスレハ無為ニメセスト云コナキ也

△故取天——トハ一天下ヲ取治ル人ワ必無心無念無爲タルヘシ無心ヲ

以テスレハ自然ト治ル自然ト取心アレハ却テ失フ也注ニ三代——此ノ
三代ワ堯舜禹ノ三代ナルヘシ常ニ三代ト云ワ夏殷周ヲ云カソレニテ文
堯少不通也伏羲神農黃帝ヲモ三代ト云ヘシ此レハ常ニハ三皇ト云ソ
周ノ定王三年ニ生タリ敬王元年ニ西ニ行ニ云ソ
老子ハ衰周ノ始ノ人也堯舜禹トヲ云堯也尤ナルヘキカ三代ノ君天下
ヲ取治ルニ無心ニシテ治メタル也

△常以無——トハ叟ノ字ハ心ト云字儀ヲ付テミルヘキ也無心ナレハ治リ

有心ナレバ天下ヲ取ヘカラスト也注ニ学ヲスレハ下ニ大惠云讀——ト云大惠諱

宗杲ト云ソ圓悟禪師ノ法嗣也碧岩集ハ圓悟アメル書也師ノ述
作ノ書大惠火ヲ以テ燒捨タヲ則讀書多キ者無明多キ堯也圓

悟ヲ以書人ヲ誘引シ大惠ハ書ヲ燒テ人ヲ誘引スル其理ハ師第

其概一ツ也嶋中ノ張命遠ト云カ大惠燒テ後ニ碧岩集ヲ冷灰ヲ

吹テニタヒ刊行メ今碧岩集是也嶋中張居士カ并刊ハ不看文字心

カ大惠秉炬ハ世間種々ノ法ハ皆已執着ヲ堯也孝子ノ爲学ヲ

忌心也台宗ノ心口無明即明ト云達ス無明ハ迷ノ根本也法性無達觀

察スル也此ノ非可尽儀呵々不可説云

才十二△聖人無常心——トハ無常□心トハ聖人ノ心ハ主トスル処無クメ無心ヲ以テ

心トスル故ニ心ニ主宰ナキ也我心ヲ我心ト思ヘハ我ト云主カ在也我ト

云私ナケレハ主宰ナキト云我ト云私ヲ以テスル故ニ衆人ノ心ニハ主アル
△以百姓(ママ)——トハ万人ヲ指ノ百姓ト云ソ一天下ノアラユル人ヲ指意得

テ見ヨ

為心——トハ聖人ノ心トスルソ吾ニ私ノ心ナキ故也若シ人吾ニ私ノ心無シハ

是則聖人ノ心也

△善者——トハ善ナル者ヲ百姓ノ善ナルヨキ衷ヲスルハ尤ヨシ聖人モスル

也△不善——トハ不善ナルトハ悪キ衷ヲスル也百姓ノ悪キヲモ悪キ

衷トテ不レ捨人也是ノ悪衷ヲ聖人カ善トスルニハ在ラズ物ノ善悪彼ノ

百姓(ママ)ニアリ聖人トハ無心ナレハ善不善任ニ無心也聖人ニハアツカラス

△吾亦善之得善ト云ハチト見ニクキ久ナレ任注ノ如ク見レハ別我ナシ此ノ

書ニ如レ此ノ文法多レ之善トシテ得レ善ト云ハ悪衷ヲ不レ捨我ト先可

意得也善ハ尤モ善也不善ヲハナセニ善トスルゾト云ニ不善ヲモ聖

人カナサハコソ不善ハ彼百姓(ママ)ニアリ善ヲ以テ彼百姓(ママ)ヲ待スレハ不善ヲモ

善トノ得ル也譬ハ我カ深く愛ル子ナトカ悪イコヲナシタレハトテ深ク

愛セハ何ソソキツクスヘキ殊ニ二三歳ナトニ嬰孩ノ子カ障子ヲ破リ

(45才)

筵席ヲ汚シナトスレト嬰兒ノコナレバ不善任悪吏任思ヌニクシトモ

不_レ思結句ハ愛憐ノ心深クナル也聖人始ヨリ無_(*)無_(ママ)別シテ善ハ常ニ

(45ウ)

聖人ニ在リ聖人ニ在ル善ヲ得ルゾ去程ニ百性_(ママ)ノ不善悪吏ヲモ善ヲ以テ愛用

自善ヲ得ルソト云フ也注ニ子曰ハ苟志——トハ論語里仁ノ篇ノ文也此語ノ文ノ心

志シトハ心ノ隨テ行ク処ヲ志ト云ソ其心眞實ニ仁ニアラズ必爲悪吏ナシ志レ仁

時則無悪若シ暫モ間断ノ仁ニ不_レ志時ハ則悪アリ仁ニ一篇スレハ皆仁也彼ノ

文ニテ可吟味煩ク不抄

△信者——トハ前ノ莠一意也信ト不信トハ彼百姓ニアリ聖人常以_レ信待_レハ

レ之皆信也聖人ノ心ハ初ヨリ疑惑ナシ常ニ信カ聖人ニ在テ他人ニヨラス我カ

信ヲ以テ彼ヲ迎フル也サル呈ニ得_レ信ト云ソ百姓ノ不信ソ信トスルニワアラス

吾信以テ彼ニ對スレバトテ吾カ信アツテ不_レ滅信ト不信トハ彼ニアツテ

聖人ニハアラス注ニ子曰不_レ億——トハ憲問ノ篇ノ文也子曰不_レ逆_レ詐不_レ億ニ

不信ニ抑亦先覺者_{ツル}是賢乎_{ナルカ}トアリ逆トハイマタカツキト至ラサレ任先ツ迎ヘ

シルト云莠ソ詐カ未至ハヤク知ル心ソ信ハイマタ見サレ任ハカリ知ル莠也詐ハ人カ我ヲア

サムクフ也不信我疑也_ハ不_レ逆_ニ不_レ億_ニ人情偽自然ニ先ツ覺知ル人ワ是ワ

カシコキト云莠也君子聖人ワ我ニ眞實專也_(ママ)誠アツテ明也誰未_レ至不信不_レ

(46オ)

億常ニ知覺スル也

△聖人之在——慄々トハ慄ハ韻會ニ怙ト通怙ハ廣勻ニ安也服也又靜也此ノ

注ニ不自安之意ト云其芟推之慄ハ安也聖人ハ安ストイヘ任自ラ安ニ

ホコラス靜ニホコラス自ラ足ルヲ足トセス常ニ自安セサル心アル故ニ如_レ斯注ニ
以字莫害ニ其芟云、

△渾心トハ百姓ト心ヲ渾同ノ圭角_ヲ不_レ出イカニモ鈍ニノ居ル芟ソ渾ノ字未_{ハル}

レ相離ニ之芟也滂下貞也同流舍汚ノ善不善ノ分ナキ也

△百姓皆注——トハ万人皆聖人ニ視モ聽モ目付処トスル芟ソ注_(*)眷注意ノ

所主也又取注着意杜子美詩ニ注ニ目_ヲ寒江ニ倚_ニ山閣意ヲ着テ見ヨ

意着テ聽ク処ニ置ク字ト見エタリ同シ付ルト云詞ハニモ付ノ字ナトモ

不尽注ノ字ヲ書ハ吟味アルヘキコ也

△聖人皆——トハ聖人ヲ父母ノ赤子ヲ保スル如クニスルト云芟ソ待ト云ワ

請待ノ芟也先キニ云如ク父母カ三歳ノ孩兒ヲ愛スレハ善不善皆共ニ

アシ、任不_レ思也サル呈ニ百姓衆人ヲ嬰兒ノ如クニ保養スルゾト云_(*)ソ

孩之ト云ゾ此レ衆人ヲ棄心ノナキ処也父母豈ニ我孩兒ノ善不善ヲ捨

テンヤ故此無棄ニ人意注ニモ云ゾ

才十三△出生人死——出ルヲ生トシ入ルヲ死トス生死ハ一機也莊子知此遊ノ篇ニ

生也死之徒也死ハ生之始也孰カ知ニ其紀人之生ハ氣ノ聚也聚ハ則爲

生散レハ則爲レ死若生死爲レ徒吾又何患シ故ニ万物ハ一也是其所レ美スル

者爲レ神奇ニ其所惡者爲臭腐ニ臭復化ハ爲神奇神奇ハ復化ノ

爲臭腐故曰通レ天下一氣ニ耳聖人故ニ貴一人ノ生死ト云一氣ノ運轉也

死ハ氣ノ散スル也生スルハ氣ノ聚也此ノ聚散息ヲナシ神奇ハ生ノ方也

臭腐ハ死方也運轉不臭生死不尽故ニ至人ハ一氣ヲ貴一氣ヨリ

生スルヲ知ルソ此注生死之機有竅妙処ト云ハ竅ハ前ノ章ニアル山川ハ

竅スルノ芟也機ト云ハ至樂ノ篇ニ万物ハ皆出ニ於機ヨリ皆入ニ於機ト在リ

入レ機トハ尽クルニ皈スル処出レ機生スルヲ也竅妙ハ出入スル臭キノ如クナル芟

在リ一氣ノ空虚ヨリ出ツ入ツスル芟カ万物ノ生死モ氣ノ出入也注ニ出者

超然トノ而脱離之也ト云ハ超然トノ脱離スルトワ情欲ノ離ル、ヲカ

入ルトハ迷テ情欲ニ洞没ル芟カ汨ハ古忽ノ切治也唐詩曰——幾時休没シ入ル芟也

有道ノ人ハ能ク入テ能出ト云ハ情欲ニ不居出入自在也出無心入ルモ亦無心ト云

意カ河上公ニ出ル寸生入ル寸死ト本經ニ点セリ注ニ出ルトキ生ストハ謂情欲ノ出ニ於

五内ニ寔定鼻靜也故ニ生入寸死トハ謂情欲入於胸臆精神勞惑ス故ニ死スト

云養生ノ説尤有^レ拠由此觀^レ之今注ニ出ルハ者超然ト^ノ脫離之ト云ハ情欲ヲ
離スル^レ芟カ有道ノ士ハ入モ出モ無心ニ^ノ能入テ出ルト云カ追可^レ明

△生之徒——トハ徒類也ト注ニ云ソ河上公ニハ十三ヲ九竅四関ト注スルソ人ノ耳目鼻口等

已上合十三也

ノ九穴ニアテ、沙汰^(ママ)シタゾ今ノ注ニハ十三ト云ハ先十二ト一ト云芟也十二ト云終ト始ト云意ニ
用タゾ物ノ始終ノ全キコ十二ニ^ノ全備スル也其故ハ天ニモ十二辰ト云アリ辰ト

云ハ種種ノ変アレ^レ辰十二辰ハ日月ノ交會十二次ノ會^(*)也ト可心得也每

月會^レ処不同十月ハ析木寅九月大火卯八月ハ壽星辰七月ハ鶉尾巳

六月ハ鶉火午五月ハ鶉訾亥十一月^(*)三^(*)梛子十二月星紀丑如此毎月ノ不同在

テ寅ヨリ初テ丑ニテ終ルト見ヘタリ是則十二ニ^ノ始終スル^レ芟ヲ以今ノ注引

用スル也歳有十二月トハ如常サテ一ヲ加フレハ十三也十二ト不^レ云十三ト云ハ此老漢ノ

(47ウ)

ノ作文ノ謎語也ト可心得也一ト云ハ何物ヲト云ヘハ一ト云ハ幾也ト注スルゾ幾ハ微也
殆也危也易曰幾者動之微^(*)增^(*)勻^(*)ニ將及也機ノ字ニモ通^(*)用^(*)処多^(*)シ爲^(*)ニ^(*)

心得云ソ凡ソ人ノ生死存亡ハ此ノ幾ノ^レ処ヲ能ク養ヘハ長生スルト云ソ此ノ一ト云

幾ト云^レ処ハ尤モ言語筆端ノ難^レ及^レ処也一ト云幾ト云同シ意也一心ノサタヲ時ニ心ノ

字ニ付テ微ノ所危ノ所也中々ハ理ノ元氣ノ源也性也凡此ノサキノトカリハ

危也ヲチントスル^レ処ナレハ危ト云ソ^(*)微ト云ソ^(*)レ此ノ中クホハ中虚ノ^レ処也サレハコナタノ

一念心ノ所ニ幾ト微トカアル一念ノ始ヲ一ト云幾ト云ヘシ善モ惡モ自レ此起滅ス
ル也若此ノ一ヲ養ヘハ長生不老也人ノ生死存亡皆此ノ一ニ本ツク也予ガ中
庸講スル時此説アラク抄若得レ之(ママ)之可明

△民之——動ノ字ヲ輒ノ字ノ心ニ見ヨト云ソ動靜ノ動トハカワルト云ソ民ト云ワ萬人
衆人ト云心ソ凡ソ人輒チヤクト云心ソ死処ニイタル亘此ノ一念ノ初ヲ能ク養ナハ
サル故也ト云ソ

△夫何故トハ自一問ヲ置タラ其子細ハ何亘ソナレハ云テ可聞ト云テ下ノ句ヲ
出ス也

△以其——トハ此子細(*)ヲ以死所ニ往クソト也此所カ老子ノ道ワ長生不老ト云戈

アリト見ルヘキ也注ニ長生久視ハ々ハ礼記ノ注ニ猶納也又廣韻(ママ)ニ此也注ニ鄭

重ト云ハ子シコロニ重々ノ能ク念ヲ入テ云ハレタト云戈ソ鄭ハ重也鄭重ハ慤慤也韻

會注ニスルソ生者我生スルソ我其生ヲ養ヲ生々ト云ソ養ニ其生大過スレハ輒チ

ヤ、モスレバ死処ニ輒クソ是則虚ニノ能ク盈損ノ能益ノ戈也

△益聞——トハ如(ママ)前此ノ如ク云ヒ下リケ老子ノ盖シ聞及タルコアリト云書タソ

古ノ能ク無心ニノ生ヲ養タル人ハ深山幽谷ニ入テモ虎狼モ傷ラサルト也撮(ママ)ノ字ハ

持也搃也收也兕ハ如野牛而青尔雅ニ兕ハ似牛注云一角青色又交

列記ニ兕有一角々長サ二尺餘リ形テ如馬鞭柄虎ニハ爪ト云兕ニハ角ト云字
芟ヲ以可_レ知_レ莊子達生篇ニアリ

夫醉者墜_レ車_{ヨリ}魚疾不死_モ骨節与人同犯_レ害与人異_コハ其神全也

乘_モ亦不知也墜_モ亦不知也死生驚懼不_レ入于其胸中_ニ是故

選_レ物_ニ而不_レ懼彼得全於酒_ニ而猶若是而況也得全於天乎

○夫何——又一問ヲ置テ前ノ芟ヲ釈スルヲ物ノ傷ラサルコ_ハ我能_ク虚_ニ

死処ナキ故也ト云ソ注_ニ其寺_マ——是ハ注者例ヲヒク老子ヲ證スル也

此故_ト未考之蛟居肴切龍之属也無_レ角曰_レ蛟_ト也池_ニ魚滿_ニ三千六_二

蛟来_テ爲_ニ之長_ヲ能率_レ免飛置_ニ笱水中_ニ蛟去_ル 小補韵會肴韵注_ニ

莊子曰——太宗師篇_ニ古ノ之眞人不逆寡不_レ雄成不_レ暮_ハ士若_レ然

者過而弗悔當而不_ニ自得_タ也若_レ然者登高不_レ慄入_レ水不_レ濡入_レ火不_レ執_ト是

知能登於假道_ニ若_レ此云、秋水篇_ニ至德ノ者火弗能_ス熱_モ水弗能_レ溺_コ寒

暑弗能_ス害_モ禽獸_モ弗能_ス賊_{云、}

才十四○道生之——道虚無也自然也万物皆虚無_{ヨリ}生故道生之ト云ソ

○德——德ハ無_{ヨリ}受来_レ故_ニ其迹アリ故_ニ畜——トハ畜ト云ハ有_トスル芟也

○物——トハ萬物ハ又弥_ソアラ_レト形アル物ナレハ形スト云

○勢——トハ勢ハ盛力権也形勢也氣敵(ママ)也物對成スコヲ勢成之ト云ソ

陰陽四時皆相因依ノヨリ合テ成スコヲ云ソ

○是以——トハ道ヨリ徳ニウツル此道ト徳トハ尊貴ノ物也自然ヨリ生スル処也

○夫莫之命——トハワサト成トスルニワアラス自然ノ然カラシムル也命ト云ワ申

(49才)

シツケテナサシムニアラズト云コ也道ノ尊徳ノ貴ト云万物ノ頂上ニ超
越トメコエ出タル故ニ尊貴也

○故道——覆——ト云マテ是則生シテハ生シ滅シテハ滅シ生滅無窮

也春ノ花開落テ亦来春モ開落スル如ク也生々無窮(*)天地ノ間ニ

在テ造化ノ力用也

○生而——虽然造物ノ理有_レ有トセス是ヲ恃テ我カ功トセラル(ママ)也

○長而——万物ノ長者頂上ナレト主人也ト云心モ無_レ何_レ衰ゾ

ナレバ玄妙ノ徳タル故也此ノ玄徳ト云ハ造化ヲサシテ云タソ造化ノ

妙用ヲ譽タソ前ノ章ニハ失_レ道徳ト云タソレトハ心カワリタソ一例スヘカ

ラス在注可見此ノ章ノ儀前ニモアリ文少異也_レ皆大同也繁

ク不_レ説也

才十五○天下有始——トハ前ニアリツル有名ハ万物ノ出生スル処ナレハ母ト云_レ天

下始アルハ造化也造化万物ヲ生ズレハ母ト云ソ造化ヨリ生セラルレバ
万物ヲ子ト云ソ母子モ儀分明也

(49ウ)

○既得其母——造化アルコヲ知テ又万物在リト知ル也万物ハトコカラ出

タゾト尋テ源ニサカノホレハ造化ノ源ヲ知ル也此皆喩ノ意也無ハ生レ有

此有ハ無ヨリ出タゾ有ヨリ尋テサカノホレハ無ニ至テ留ル如レ此工夫スルコ專

一也肝要也如レ斯工夫成就セハ一生平安ニ命ヲ以テ終ルマテ此身此ノ

有ニ於テ危コアルヘカラズ

○塞——兌ハ口也ト注ス兌ハ易ニ為レ口穴也通也人ノ口ハ穴也故ニ兌ヲ口ヲスルゾ

人口ヨリ息氣カ出唾ナトモ出也人ノ家ノ門ヨリ物出入スル也是ヲ以テ万

物ノ自出処ニ喩タルソ口チ空虚ナル穴ナレバ能出入スル氣息等アリ

人家ノ門ノ空虚ナル処アレハ能ク出入スル人物等アル也塞閉ト云ハ有ヲ

無ノ処ニナクシヲクヘキ也口ヲ開ケハアシ、門ヲヒラケハアシ、閉塞終レ身一

生不^(ママ)動不^(ママ)苦勞自^(ママ)功^(ママ)成也是カ則有ヲ有トセスノ^(ママ)也

○開——開トハ開キ出ツ是ヲ用ユル也也是ヲ用ハ益ヲ求也益ヲ求レバ

亶ノ外危ノ何ニ任笑止千萬ナルコ出来也其時ハ救ヒタスクヘキヤウモ

ナキ也悔任カイモナキコ也濟ハ益也ト注ニモスルゾ尔雅ニ益也トアリ疏ニ

(50オ)

引^テ左傳^ヲ 盍^{サリ}請^ニ 濟^ニ 師^ヲ於^ニ王^ニ云云

○見小——一例ノ文也如文大ヲミルト小ニスレハ其明至^テ明也剛ナリト

剛ニホコラス退歩ノ柔ヲ守レハ其ノ柔至テ強也自ラ我カ明ヲ不^レ顯
故ニ明カ明トナルゾ

○用其——明ハ体也光ヲ用也光ヲ以^テ本体ノ明へ讓レハ無^レ咎長久也

○襲——トハ前ノ章襲明ノ例也襲ハカクス也ツ、ム也常ハ不^レ變也

不^レ易也其ノ光ノ用ヲ藏伏ノサスカ其光常ナリ故ニ常ト云ソ注ニ在リ
可^レ易見不^レ及^レ立^レ言^ヲ云、

才^(*)十六○使我介——介ハ甲也カフワヨロヒ也カタキコ也此ノ介然ハタチマチト云^テ也

盡心ノ下孟子山蹊間介然用之^(*)而成路字ハ同シトイヘト其ノ所ニ依リ^テ 變ニ
随テ可用也今ノ注ノ心ハ固クカタマリタル^ニ用タソ至道ハ固ク執テ變

化セス^(*)大道ニハ何ソ知行ヲ用ン若シ知アリ行アレハ固キヲ碎キテ施シ用ル^ニ 變ニ
アリ有道ノ人ワ道ノ人ハ道ノ理ヲ參得^テ變化セサルコヲ知タル故ニ彼ノ道ニ

知行ヲ加レバトキホドクヤウナル所ヲ畏ル、ト云^テ 變ニ

○大道——トハ至道ノ大路ハ真平カ也世人道ヲ求ムトイヘト其正キ適道ヲ

不知但好^シテ利路ノコミチヲ行テ平大ノ道ヲ不^レ知也世人大道ヲ不^レ知我レ自^ラ 變ニ

(50ウ)

明睿智ニホコリ見聞ニホコリ是則大道ヲ不知利路ノ徑ヲ好ム者也何トノ
大道ヲ知ラヌヤト云芟也

○朝——ト云ヨリ盜誇ト云マテハ譬喩也タトヘハ国家ヲタモチ朝廷ヲ治定
スルニヨリ朝廷ハト、ノホリ結構ニシ咸陽宮未央殿ナントノヤウナル臺榭ヲ作
是ヲ朝甚タ除ルト云ソ榭ハ詞夜切臺ニ有ル屋也尚書ニ臺榭陂池正義ニ云榭
是ヲ臺上之屋歇前無壁今之廳是也

○田——トハ朝廷ニ結構ナルコト出クルハ民百姓ノ膏血ナル故ニ皆逃亡シ迷惑ス
ル故ニ田畠ハ荒蕪スル也

○倉——トハ倉廩也クラノ内ノ財宝尽テ虚クナレ任我身ニハ文采トテ錦
繡ノ服ヲキカサル也身ニ利刀名劔ヲ帶ノ美食旨酒ニ飽滿ノ滿腹ヲ
タ、イテ居カラ財宝多積滿テ富貴榮花ノ居ルハ是則民ヲ迷
惑サスル処ヨリ出ル

○是謂——ト云ハ盜賊カ人カ物ヲ盜ミトリテ其ノ能ニホコリテヲルカ如ク也如レ此者豈
能長久ナランヤト云ソ此則譬ノ芟也如其大道不_レ知_レ聰明利智_ニホコル
此_レ則_レコミチヲスク者也大道ニ至ル_レ芟_ニアランヤ

○非道ト云ワ前ノ章ニ不道ト云ト同芟也老子ノ書譬喩ヲ引ケ任_レ臂_マ

喻則世人ヲ教ルノ芟也如此等ノ文ハ誠巧妙竒絶ナル文芟也ト云ゾ

才十七○善——不輟ト云マテノ三句喻也世間ノ人ノ善ク徳ヲ立テ朴ノスホナル抱ク

者ハ其人ノ家ハ子々孫々マテ不レ易先祖ノ祭祀ヲ專ラニシテ不止也如

其道ノ体形ナケレ任善ノ建善ノ抱クカ如ク長ク存ノ道一ヲ生ノヨリ万物ヲ生ノ

生々ノ不レ尽不窮子孫ノ能家ヲ繼ク如ク也

○修之——者ト云テ道ノ徳ヲ云タゾ修ノ之身トハ此ノ道ヲ以テ身ヲ治レハ眞

實ニノ無偽也

○修之家ト一家ニヲシ廣ムル猶餘アルソ無不足

○修之弼トハ一弼ニ廣レハ一弼ノ長者尊者トナルソ長ハ上声ト注ニスルヲサト

讀時上声也国家天下其儀如レ文不及抄

○故以身——我一身ニ付テ他人ヲ見ルニ他人モ亦同也家国天下皆同キ也

道ノ用ル処皆同シキ無異芟也

○以此——此トハ道也一ノ道ヲ以テ天下ヲ皆如此然リ一人モ一家モ一國モ

一天下モシカラズト云亶ナキ也如レ注無別芟不抄

才十八○會——徳ヲ含蔵外不レ顯云ソ厚如文徳ノ内ニ在テ外ニ不レ見ノ至極

シタルハト云也

○比——不搏ト云マテ物ノ爲ニヤフラレヌト云コヲ云ソ赤子無心ナレハ徳内

含テ外不レ頭是則至人含徳ノ人ノ如クト云タソ搏タンバウツ阡ツカム阡ヨソ

ダソ水ニ撃ニ千里搏扶揺而上者九萬里ト云時ハ羽ウツト云茂也

此ニテハトリツム茂也擢ハクワクノ音爪持也搏也撲取也螫セキノ音蟲

行毒也蜂モ虫ナトノ毒尾ヲ以サス茂也

○骨——牝牡トハ男女交感ノ道モ不知也

○峻ハ音撼サイ四切赤子陰也本ハ月偏也賸也赤子ノ陰勢ヲ云ソ注ニ命原

ト云ハ陰勢ノ衰也勢精至テ未犯故ニ起立スル也

△終日——嗌ハ伊昔切エキ也咽也尔雅ニ江束ニハ呼レ咽曰一又漢ノ

昭帝崩玉フ昌邑王不レ哭云嗌痛ムト云也喉也

△嗻所嫁切サノ音也変也不嗻云ハ不レ変又公邁切アイノ音也氣逆也

茂同赤子ハ氣純一ニノ專ラ同シ故ニ如此也如其ノ含徳至極ノ有道人モ亦

子ノ如クト云茂ソ是則有心ニノ無心也心ヲ不動故也

△知知——曰強トハ和ト常トハ体用也和ハ常ノ用也和ヲ至タラシメテ至和ノ理ヲ

知レハ常住長久也不変也常久ノ理ヲ至シメテ能知レハ道ニ明也道常久不變不

易也是マテ三句ハヨキ也

△益——強是ノ二句ハアシキ也生ハ益ヘカラスツトメ強テ益セハ殃禍トナル也気ヲ

使ヘハ志シ動ク強ハ暴悪也非道ト云ソ祥ノ字ハ吉祥ト云時ハ善キヲ

也妖也ト云時ハ悪キヲ也今此ノ祥ト云ハアシキヲニ用タソ漢志ニ妖孽自

レ外来謂ニ之祥云云左傳ニ時^(ママ)有ニ大祥云云又是何ヲ祥ト云ハ災異也字皆隨

レ蔑ニ可見一例スヘカラス

○物——如前可見無別蔑云云注如文

才十九△知者——道ニ言語道断心行處滅也如何ノ口ヲ開テ云ンヤ維摩居士病^ニ

臥^ス文殊大士來入不二法門ヲ問居士杜口大士則開悟是則無言以無言^ヲ

云フ也知者ハ不言ノ蔑也注ニ道ハ不可容言ト云ハ無説ノ処也若一瞥下サハ

不知人也

△塞——此ヨリ下如前云云

△玄妙^(ニ)同ト云ハ至理玄妙同キ蔑也

△不可^(ヒ)徳——此玄同ノ道ハ親モ無ク疎モ無ク世間眼ヲ超出スル也

△故爲——トハ超出スル故ニ天下ノ尊貴也尊貴ナル者ハ何ヲ謂玄同乎玄

同ハ何ヲ謂玄妙至道也注紊フン乱也商書有條而不紊云云

△以正治国——此二句意アツテスルコトヲ云須^ルニ詐術トハ武略ノ吏也政ハ与武略

国ヲ治ルニカヘツテ不_レ治理也故ニ意アツテスルヲ悪キト云_レ也

○以無_レ妄——是ハ以テ無_レ妄無_レ心_ニ天下_ヲタトリ天下ヲ治ルヲヨシトスルト云_レ也

○吾何以——何ヲ以テ知ルトナラハ道ハ无_レ為_レ无_レ妄ニ_レ不_レ為_レ云_レ妄ナシ不_レ至

云_レ妄ナシ此ノ道ヲ以テ有_レ意スル_{コト}ハ悪フ無_レ心スルハヨキ也ト知ト云_レ

○以此トハ此トハ道也

○夫天下——忌諱トハ禁制々道ノ妄也人悪ヲスルヲ戒_フ非ヲ行_フヲ禁_{スル}也

○民弥_ト貧_ト法度アル呈カヘツテ盜賊アリト云_レ也

○人多——利器トハ世間ノ用ル道具器財便利ノ用ニ立ツ者也サヤウノ道

具出来テ国家ノ為_レノ結句悪キ_{コト}多キ也

○民多——技巧ハ大工ノ色々ノ巧ミナル道具ヲ作出ス_レ也注_ニ桔槔汲

水器也ハ子ツルヘト云モノ是也機ハ織具也又ハ機械也アヤツ_{コト}ヲ以_テ

水ナトヲ汲ム_レ也此ノ機ノ字ヲ用也莊子子真_ニ謂_フ漢陰_ニ夫人_ニ曰有

機_ニ於_テ此_ニ日_ニ漚_ニ百_ニ畦_ニ云_レリウゴ車ノ類也如_レ此巧器ノ物出来_テ機心_ニ弥_ニ生_ス

上古地_ヲクボメテ水ヲタメ手ヲサ々エテ水_ヲノミシ淳素_ニ淳朴_ニ民ノ

心スナヲナルニワシカス

○法令——法度多_ク裡盜賊モ又多_シ故_ニ有_レ意スル_レ也妄皆害多_キ也

(53才)

喩テ云也

○故聖人——自樸是聖人無為ニソノ民私ママシ無ニソノ夏天下治マル夏ヲ云ソ

(53ウ)

別ニ芟ナシ在文可見如シ注煩不抄

○其政悶*)——悶莫困切懣也煩懣心鬱也不覺貞国ノ政不覺不

明ニノ心無キハ其國ノ民淳々ト自安樂也無心ナルワ能有心ナルワ

アシ、ト云心ママヲ醇ト淳ト通ス

○其政察——トハ察——トハ煩碎也ト注スル呈ニ如何ニモワツラハシソ物

ヲコマカニスル也是則有心ノ伎也缺——ハ不足ノ芟也有心ニノ煩碎

ナレハ民不足ニノアシキ也是則無心ハヨク有心ハアシキト云芟也国家モ

無心ニノ自治ヘキト云コヲ云タゾ

○禍兮——此ヨリ妖字マテノ数句禍福善惡一定ナラヌ皆云善ノ

ウラハ惡也一ノウラハ六ト云心ヲ云タソ

○禍——禍ニヨツテ出テクル物也其故ハ若人禍アラン其ノ罪ヲ責メ◇

善ニウツレハ禍轉メ去リ福則来ル妖ハ德ニカタス桑穀ノ木一夜ニ生メ禍出

来レリ德ヲ修メ一朝ニカレ滅メ(以下欠)

(54オ)

(裏面白紙)

(後表紙)

(54ウ)

┌

補注

一、翻字に際して疑義の存する字句、底本書写者修正字句の原
様態等、本翻印字旁に（*）を付した箇所につき、補記する。

一、注記に当たっては、次の略符を使用する。

原 変更される以前のもとの文字、或いは原様態

重 原文字の全体又は一部分への重ね書きにより書かれ

た文字

擦 原文字が擦り消された様態

原経 老子虜斎口義経文（拠寛永四年京安田安昌刊本）

原注 老子虜斎口義林希逸注（同右）

一、各項頭に丁数及び表裏の別、行次数を標記した。同業同行
の場合は標記を略す。

1才5・6 綱 或いは綱とし、誤写と見做すべきか、綱・網
は字形が相似し、殊に異体字、また行草筆写体では両字
を弁別することが困難な場合がある

1ウ4・5・6、2才13・ウ2 聃・聃 現在通行の正字体は
聃或いは聃であるが古写本では此の両字体が用いられる

ことが多い

2ウ1 彭 原送り仮名「ト」有り、墨筆で抹消

祖 重、原「即」

14 昭聃 論語類考卷七作「胎聃」（拠湖海樓叢書本）

3才13 少 字旁右下、原「ミ」、此れを墨線で抹消

ウ4 ノ 誤写か、不用のごとし

一（返点） 誤記か、下の「関」字の下に在るべきか

9 スルヲ（送り仮名） ヲ重、原「也」か

4才2 階 河上公章句古鈔諸本「陞」に作る、但、〔慶長〕

古活字版、武内義雄旧蔵〔室町末〕写本は「階」に作る

5ウ1 テ 存疑、第一画墨線で抹消されているように見え、

或いは「ㄣ」か、今「テ」と見做しこの字下「ト」の省
略と解す

13 コヤワリ コ、或いは「マ」か、ワ、「ヨ」の譌か

6才3 トウド ト、存疑、或いは「チ」か

10 有 崩し字、今この字に充てる、存疑、字形は「居」
に近い

ウ14 必 網かけ状に細点を施す、見消ちか

7才6 有 崩し字、今この字に充てる、存疑、（6才10）と

同様字形は「居」に近い

ウ7 蘇頌濱力解ニ云ゾ 以下「則神役魄」までの文、性理大全卷五十七からの引用か

12 朱子カ儀ニ魄ハ 以下「便粗了」までの文、性理大全卷五十七からの引用

8才14 ■ 原「心」、網みかけ状に細点を施し抹消

8ウ7 主重、原「生」か

15 卍 重、原不明

9才9 ■ 原「云」、網みかけ状に細点を施し抹消

ウ1 處 崩し字、今この字に充てる、存疑

9 畧 崩し字、今この字に充てる、存疑

10 11の間、章次数「才十三」三字の標記あるべし、誤脱

15 身 重、原不明

10才3 ト(送り仮名) 或いは「ハ」か

14 或人朱子ニ 以下「不得」まで、性理大全卷五十七に拠る

ウ1 此 崩し字、今この字に充てる

12才7 辞 重、原不明

ウ7 兮 原経には此の字無し

13 澗 崩し字、存疑、古今韻會舉要(拠「江戸初」刊本、

以下同じ)曠字引廣韻に拠り、この字に充てる

澗 崩し字、存疑

14才1 齋 存疑

8 ■ 墨以て一字塗抹、原、不明

ウ9 在 崩し字、存疑、今この字に充てる

14 ■ 墨以て一字塗抹、原、不明

15才9 毛 重、原「ノ」か

10 キ 重、原「ク」か

ウ6 合 崩し字、今この字に充てる、存疑

9 ニ 重、原「ノ」か

16才3 ツ 重、原「リ」か

6 テ 誤写か、或いは「ソ」か

9 キ 重、原「ク」

ウ9 昏 重、原不明

17才4 条 崩し字、今この字に充てる、存疑

18才8・11 雀 通行の『老子』諸本は「雀」に作る、古鈔本

の内、武内義雄旧蔵〔室町末〕写本は同じく「雀」に作り、宮内庁書陵部蔵〔南北朝〕写本・六地藏寺蔵〔室町

末近世初」写本は「窪」に作り、斯道文庫蔵天文十五年
写本・足利学校遺蹟図書館蔵〔室町〕写本は「窪」に作
り、弘文荘旧蔵〔室町末〕写本は「窪」に作っている、
諸字「窪」の異体字と見做すことが出来るのか否か、或
いは本来別字であるのか、存疑

10 前ノ段ニ注セリ 第十五章林注「敵故也」を指す

13 ■ 一字塗抹、原不明

ウ4 ス 重、原「バ」

5 下夕 崩し字、存疑

19才14 ノ 下の「学」字に接触、或は過怠の墨痕か

20才10 ノア 擦重、原「トハ」

ウ3 無(行間) 此の字の直下で料紙裁断、恐らくは「用」
一字欠失

ウ4 ■ (行間) 墨塗抹、原「不」

21才2 字 右旁、送り仮名一字墨塗抹、原不明

9 故 原有返点「レ」、擦

14 リ 重、原「ル」

ウ10 ■ 墨塗抹、原「木」

22ウ4 ○ 以下、25ウ迄、原料紙の天地が少しく裁断されて

此の「○」符の一部或いは全部が欠けている、全部欠け
ている所も、前後の文意、段落改行を案じて私に補った
23才6 但「俱」の譌か

14 敬夫カ曰老子ノ云不善人ハ 以下(23ウ2)の「不善
也」まで、性理大全卷五十七に見える

24ウ14 詩無然歆羨 以下「以自濟云、」まで竄入衍文か

26ウ7 自然ニアラサレハ天下ヲ取 此の文意味不通、脱字有
るか

るか

27ウ8 不勿用「不」「勿」何れか一字衍か

29才8 然「○」を重、右旁に見消ち、「ヒ」或いは「トル」

か、「ル」第一画が本文「然」字に懸かっている様にも
見える

ウ7 海「ニ」或いは無しか、本文「海」字の左下端に懸

かっている様にも見えるが、汚れにも見える

30才6 休 見消ち「ミ」を重ね書き

31ウ8 成 重、原不明

33ウ3 候 左旁に墨痕有るも判読不能、或いは見消ち「ヒ」

か

11 ツ(送り仮名) 或いは「ヲ」カ

34才1 才一 以下、通行の老子虞齋口義諸本は下巻となす、

本抄の前半は、各章毎の区切りは本行一行分を充てて章

次数を記すが、此れ以降は、每章冒頭の上欄に「才幾」

と標記する体式に変わる。但し、原料紙の天地が裁断さ

れていて、「才」字の上半或いは全部、一二桁章次数の第

一・二字は欠損している、此の欠損部分に限っては私に

補記した、此の「才一」の「才」字上半も欠

其徳タルヲ不知「徳タ」の間「徳」一字脱か、或

いは「徳」の送り仮名「ノ」衍か

3 ノ重、原「ハ」

35才12 寸 擦重、原「尺」か

ウ4 魯齊許氏曰 以下「不必槩拳」まで、性理大全卷五十

七に見える

5 ヲの末画は過失の墨痕と認て、「ニ」とすべきか

9 才二「才」字、料紙上部裁断され欠、私に補う

12 正 墨斜線を重ね書き、消し線か

36才6 ■ 墨線を重ね書き、原、右旁部分は「端」左偏は不

明、文意からは「無盈」の二字に作るべきか

ウ5 礼記自称ノ曰 此の六字衍か、「曰」字の送り仮名は

本文に懸かって「三」ともとれ判読困難、今見消ちと解
して「ヒ」と見做す

13 ■ 判読不能、「ノ」或いは「ナ」か

37才11 車 重、原不明

ウ5 降り 右上部分に「コ」符を重ね書き、此の二字削除

の意か

7 才三「才」字、料紙上部裁断され文字の上半欠

38才5 靈弱卑主トスル 送り仮名「フ」は字形からは「コ」

ともとれるが、双方意不通、「ヲ」が正か

8 才四「才」字、料紙上部裁断され、末画の下方一部

のみ残存

ウ4 到 重、原「例」

5 筆 重、原「章」

12 注 原「住」或は「往」、左偏「シ」を重、右旁「生」

は原のままなれど、私に訂す

39才2 シ「シ」符を重、見消ちか

5 自 重、原「目」(「自」第一画は後筆)

ウ1 ■ 原「也」、「三」符を重、削除の意か

ソ 重、存疑、或いは「ワ」、或は「フ」を墨点で抹

消か

5 ■ 重、存疑、或は「ニ」か、原「ヨリ」

6 キ 衍か、或いは字上「へ」字脱落か

14 才五 「才」字、料紙上部裁断され、末画の下方ごく一部のみ残存

40ウ7 ヲ 存疑、字形は「ヲ」に近いが、下文への繋がりが悪い、「ソ」の譌か

10 剛 重、原不明

41才1 得 重、原不明

2 央 或いは「失」か、存疑

4 死 懼 此の両字存疑、下字は左偏不詳、今此の字に充てる、恐らくは「孔懼」の譌

7 呂 崩し字、存疑、或いは「公」か

8 才六 「才」字、料紙上部裁断され、上半部分を欠く

ウ10 才七 「才」字、料紙上部裁断され、末画のごく一部ののみ存

14 則 左偏一部虫損

42ウ6 才八 「才」字、料紙上部裁断され、上半部分を欠く

43才9 才九 「才」字、料紙上部裁断され、上半部分を欠く

10 キ 重、原「ク」か

ウ1 陣 重、原不明

2 ■ 判字不能、或は「曠」か

11 才十 「才」字、料紙上部裁断され欠、私に補う
14 万 文字の中央部分虫損

44才9 才十一 「才」字、料紙上部裁断され欠、私に補う
日 書写字形「月」に近い

10 日 書写字形「月」に近い

ウ2 日 書写字形「月」に近い

3 隳 原注作「隳」、次行の「隳」「隳」「隳」三字共に存疑、書写字形の判別が困難で、且つ誤写の虞れ有り

14 ヲ 重、原「夕」か

45才5 碧 重、左上「王」部分に加筆、原不明

灰 重、原不明

8 達 崩し字、存疑

10 才十二 「才」字、料紙上部裁断され欠、私に補う

□ ほぼ一字分空格、中央に小さくM字型の箋符墨書
詰めめ意か

無重、原「也」か

ウ14 無無 存疑、崩し字、今この字に充てる

46ウ8 眷「眷」に作る、私に改める

14 ソ 存疑、「ヲ」か

47才3 才十三 料紙上部裁断され「才」字全部「十」字の上

半部分欠、私に補う

ウ10 ノ 衍か、或いはノ字下「ㄣ」脱か、存疑

12 ㄣ 「玄」の異体か

48才2 之 重、原「也」か

6 レ 存疑、字形から今仮にこの字に充てる

レ 存疑、字形から今仮にこの字に充てる

ウ1 細 左偏崩し字、存疑、今この字に充てる

2 札記ノ注ニ 坊記鄭玄注に「不視猶不内也」と、孔穎

達疏に「視納也」とある

49才8 才十四 料紙上部裁断され「才」一字欠、私に補う

9 レ 存疑、「シ」或いは「シ」か

ウ4 ニ 重、原「ハ」か

12 才十五 料紙上部裁断され「才」一字欠、私に補う

50ウ6 ハ(右行間) 存疑、或いは「云」か

9 才十六 料紙上部裁断され「才十」二字欠、私に補う

甲 原「卑」か、一部擦消し「甲」と作す

ワ 重、原不明

10 之 重、原「也」

12 セ 重、原不明

51ウ3 レ 重、原「ノ」

6 才十七 料紙上部裁断され「才十」二字欠、私に補う

52才5 才十八 料紙上部裁断され「才十」二字欠、私に補う

10 ニ 重、原「ノ」

搏 存疑、或いは「搏」か、書写字体からは判読し難

い、今、古今韻會舉要攷字引廣韻に拠る

13 臧四切 恐らくは伝写の譌、「臧回切」か

ウ1 呼 重、原不明

2 昭 重、原不明

53才1 才十九 料紙上部裁断され「才十」二字欠、私に補う

10 △以正治国 此れより章改まる、以下章次數の標記無し

し

ウ7 テ 右上部分虫損欠、今この字に充てる

54才2 ○其政悶 此処より改章、章次數標記無し

補 訂 一

一、本翻印字旁に(ママ)符を付した箇所につき、底本の誤写誤字を補正する。

一、底本の誤字を掲出し、「↓」符下に訂正字を示す。

一、訂正字下()に補正の根拠を記した場合がある。

一、「原経」「原注」の略符は「補注」の例に準じる。

一、遺漏は猶少なくなり、完璧を期しがたい。向後の加訂を要する。

1才4 字↓学
5 斬↓軒
斬↓軒
赤↓亦
6 斬↓軒
ウ4 瀟↓濟
ソ↓フ
6 耳↓甘
11 箇↓簡

2才3 孝↓老

8 能↓態

ウ3 鑑↓鏗

3才5 士↓土

11 ムロシ↓ムシロ

ウ7 十↓千

前↓所

11 太↓大か

14 老↓孝

章↓帝

4才3 文↓丈

杲↓卑

4 帝↓章

5 羅↓四維

5ウ5 言ハ善トハ信↓言ハ善信トハ(原経「言善信」、原注

「言善信言」)

7才7 々↓災

7ウ1 誤↓設

5 ド↓トか

15 則↓剛 (性理大全卷五十七作「剛」)

8才8 條↓滌

9才4 老↓考

9 ノ↓トか、或いは衍字

10才2 休↓汰

9 直↓真

13 決↓次か

ウ9 ヲ↓ノか、或いはシ

10 モ↓ミ

俱↓但

12才10 居↓君

ウ1 未↓未

2 別↓制

犯↓犯

3 犯↓犯

9 原↓厚

10 休↓汰

11 卵↓卵

13才14 復命「トハ」其復復トハ (原経作「吾以觀其復」、また原

注「復歸根復命之時也」

ウ5 無↓知

13 也↓之か (原経「下知有之」)

14才7 令↓今

15才1 子↓カ

ウ2 娶↓聚

7 足↓見か

17ウ9 ノ↓ハか

18才8 鳥爪↓鳥瓜

19才3 カヲウ↓カソウ (「ヲ」右上に見消ちミ)

7 丙↓雨

ウ13 跂ハ↓「跂」或いは「跂ハ」

20才6 頭↓彰 (原経作「彰」)

12 莊衣↓装

21才1 ソ↓ノ (「ソ」の第一画は汚れか)

2 トフト↓トフト

11 モ↓ノか

ウ3 タ↓ク

10 麗↓麗か (原経作「麗」)

14 起↓超か (原経作「超」)
 22才1 起↓超か
 2 老↓考
 3 起↓超か
 ウ1 田討↓罰
 2 ト各↓咎
 田訓↓罰
 23才10 老↓考
 齋↓齊
 ウ11 知↓如 (原注「言如此則天下歸之」)
 24ウ3 物↓無、或いは「物」下「無」字脱か
 26才4 化↓凡
 6 嚙↓啍か
 8 偏↓倫
 ウ3 掌↓章
 28才1 金↓全 (原注「全是以兵爲喻」)
 ウ3 衰↓襄
 29才4 井↓甘
 6 合↓令

ウ4 申↓由
 30ウ4 貴↓遺
 31ウ3 類↓頼
 32才3 甘^{アマキラ}↓耳 「甘」「耳」は字体が相似し、特に書写体では
 弁別が困難な場合がある、本来は「耳」が正しいが、振
 り仮名もあり、書写者の誤写と見做さざるを得ない
 7 始↓如
 ウ5 歛↓歛
 33才11 章↓童か、或いは同音の「小」又は「少」か
 ウ3 候↓侯
 11 句↓勿
 34才14 人↓仁か
 ウ8 ク↓リか
 35才11 天↓大 (原経「是以大丈夫」)
 14 夫↓扶
 ウ3 去此——トハ↓去彼——トハ、或いは「去——此トハ」
 (原経「去彼取此」)
 6 賦↓賊
 8 也↓世

- | | | | |
|------|---------------------------|------|---------------------------------|
| 10 | 礼↓灵か | 38才5 | 霊↓虚 |
| 11 | 候↓侯 | 8 | 上中下ノ分タリ↓上中下ニ(ヲ)分タリ、或いは「上中下ノ分アリ」 |
| 14 | 厥足↓蹙 | 10 | 動↓勤 |
| 36才6 | 神灵無ノ歇↓神無以灵↓歇(原経「神無以靈將恐歇」) | 11 | 動↓勤 |
| 11 | 霊↓虚 | ウ1 | 倒↓例か |
| 12 | 霊↓虚 | 4 | 條↓修か |
| ウ1 | 候↓侯 | 39才5 | 苦↓若 |
| 2 | 項↓高、或いは「頂」 | 10 | 偷↓渝 |
| 3 | 霊↓虚 | | 偷↓渝 |
| 37才2 | 霊↓虚 | | 偷↓渝 |
| 4 | 賊↓賤(河上公章句「石多故見賤」) | | 偷↓渝 |
| 7 | 霊↓虚 | 12 | 古↓方 |
| 8 | 偷↓渝 | | 穴↓空か |
| 10 | ノ↓之 | ウ6 | 白↓曰 |
| | 日↓曰 | 7 | 着↓著 |
| | 目↓自 | 8 | 陰↓隱(原経「道隱無名」) |
| 37ウ1 | 候↓侯 | | 微↓微 |
| 3 | 公↓工 | 11 | 能↓善(原経「道善貸且成」) |
| 7 | 久↓反(原経「反者道之動」) | 13 | 五↓後 |

40才3 化↓它

5 原↓厚

12 三↓王、第一、二画の間に墨点、不審の符か

目↓自

40ウ5 缺↓缺

41才7 縦↓維

9 テ↓キか

12 號↓鱗

號↓鱗

13 號↓鱗

ウ1 倒↓例
ヲ↓ワ、或いは、「ハ」

13 身ト与——→身与貨——、或いは「身与——」（原経

「身与貨孰多」

42才1 ヲ↓モ

11 物↓持か

ウ2 是↓足（原経「知足不辱」

4 愛↓受（原注「千古萬古受用不盡者」

11 柱↓枉

14 大辨ニ→大辨ハ、或いは送り仮名は衍（原経「大辯若

訥」

43才7 淨↓静か（原注「惟道之清静」

14 難宝得↓難得宝

ウ2 立↓五

失↓矢

3 過↓禍

5 是↓足

8 ヲ↓々か

44ウ3 フ↓クか

45才5 命↓明

7 孝↓老

13 性↓姓

性↓姓

ウ4 性↓姓

6 性↓姓

7 久↓文か

10 性↓姓

性↓姓

14 無↓分か (原注「初無分別之心則善常在我」)
 46才1 性↓姓
 8 ソ↓ヲか
 14 誠↓誠か
 47才3 人↓入
 此↓北
 ウ1 洞↓汨
 忽↓忽
 旧↓汨
 4 鼻↓鬼
 8 伏↓汰
 48才9 雛↓觀
 ウ2 此↓比
 5 輒↓趁
 6 益↓蓋 (蓋)
 ケ↓テか
 7 撮↓攝
 テ↓チか
 9
 11 墜↓墜

犯↓犯
 12 墜↓墜
 49才1 其↓某
 11 蔽↓蔽か (拗古今韻會舉要勢字引增韻)
 ウ6 ラ↓サ
 50才10 ナ↓カか (原注「藏有於無而不露也」)
 11 動↓勤
 51ウ2 聽↓聰
 4 臂↓臂
 10 者↓真か (原經「修之身其德乃真」)
 52才11 毛虫↓蚤か、或いは「蚤」か
 14 犯↓犯
 ウ1 束↓束
 3 公↓么 (拗古今韻會舉要小補嗶字引集韻、拗正保五年刊本)
 4 同↓固 (原注「赤子純一專固」)
 亦↓赤
 6 知↓和 (原經「知和曰常」)
 8 三↓二

12 時↓將 (古今韻會舉要祥字引左傳作「將」)

53才7 德↓得 (原経「不可得而親」)

12 タ↓ヲか

ウ7 ㄣ↓リ

8 真↓貢

夫↓丈

9 機↓械

漙↓浸

14 私↓化 (原注「無為而民自化」)

54才4 ヲ↓ソか

補 訂 二

一、本翻印字旁に(・)(・)(・)(・)符を付した衍字脱字を補正する。

一、衍脱字を含む本文の字句を掲出し「↓」符の下に訂正する。

一、「原経」「原注」の略符は、補注、補訂一の例に準じる。

一、訂正字句、及び原文の衍字には、右旁に「・」を附す。

一、助詞・訓点の脱落或いは省略の箇所については補訂を略す。

1才5 字可↓字学可

2ウ4 七歳↓七百歳

11 霸王云者出云正焉↓霸王云者出云焉

5ウ4 心ハ善測ハ↓心ハ善測トハ測ハ

7ウ15 有ニ毫発ニ是則這氣↓有ニ毫発露ニ便是剛這氣(拗性

理大全卷五十七)

9ウ1 ハニツヲ↓ハニツチヲ

12才3 通ニ玄ニ玄ヲカケテ↓通ニ玄ヲカケテ

16ウ13 衆人ハ有以テ↓衆人ハ皆有以テ(原経有「皆」字)

18才6 抑ヘ枉クル也サヘ枉ニハ↓抑ヘ枉クル也ヲサヘ枉ニハ

10 弊ハ弊ト三字通用ス↓弊ハ敝弊ト三字通用ス

19ウ1 道者同道↓道者同於道(原経有「於」字)

道ハ行ク也則行也↓道ハ行ク也可行則行也(原注「道

行也徳得也可行則行也我亦無違焉」)

21才13 王モ其天一大ノ一ツ也↓王モ其大ノ一ツ也

ウ7 君根ト云君ト云皆根本ノ芟也↓根ト云君ト云皆根本ノ

芟也

24才2 復販嬰兒↓復販於嬰兒(原経有「於」字)

10 復於無極トハ無物也↓復於無極トハ無極トハ無物也

ウ 2 工人カ引テ御器トハ形也皿ニ作ルハ器也↓工人カ引テ

御皿ニ作ルハ器也

35ウ 6 以レ智治^ヲ国々ノ賊不以智治国々賊不以智治^ム国々ノ福↓

以レ智治^ヲ国々ノ賊不^ニ以智治^レ国々ノ福

36ウ 7 青黼黻之煌々^ニ非而↓青黄黼黻煌々^ニ非乎而

12 取ノテ↓取ノケテ

37オ 9 除^レ日無^レ内無外↓除^レ日無^レ歲無^レ内無外

10 不可謂之謂之歲↓不可謂之歲

故日一而生此一句↓故日一此一句

ウ 7 反ハ復也靜ト也ト注↓反ハ復也靜也ト注

38オ 2 天地先ツ出^テキテ後ニ万物アリ万物アリ万物ワ天地ノ有

ニ生シタル也↓天地先ツ出^テキテ後ニ万物アリ万物ワ天地

ノ有ニ生シタル也

40ウ 3 故物損之↓故物或損之(原経有「或」字)

41オ 8 堅物ワ折ク↓堅物ワ折易ク(原注「堅物易折」)

ウ 3 能トル也↓能トホル也

43オ 7 動ニ居ラス靜ニ居ハ↓動ニ居ラス靜ニ居ラスハ(原注

「不動不靜」)

44オ 3 出レハ弥遠ケレハト云ワト云ハ↓出レハ弥遠ケレハト

云ワ

47オ 6 臭復化ハ爲神奇↓臭腐復化ハ爲神奇

48オ 1 老漢ノノ作文↓老漢ノ作文

11 輒チタヤクト云心ソ↓輒チタヤスクト云心ソ

49オ 2 滿^テ三千六ニ↓滿^テ三千六百ニ

51ウ 6 朴ノスホナル↓朴ノスナホナル

10 修ノ之身トハ↓修之身トハ

53オ 6 玄妙同↓玄同(左下「ヒ」は見消ち、原経「是謂玄同」)